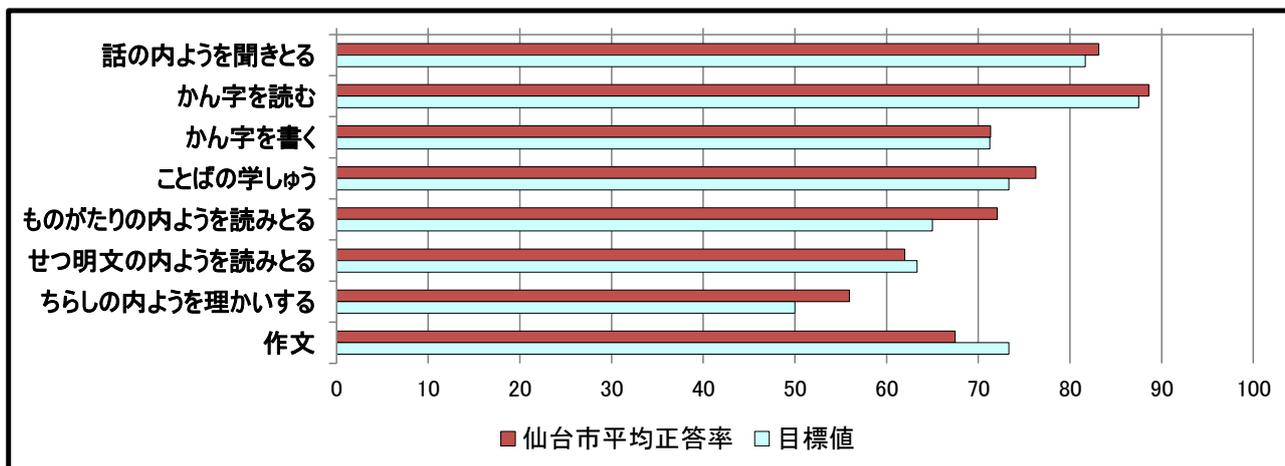


平成31年度仙台市標準学力検査の分析結果と指導改善の方策【学年・教科】

【小学校3年生 国語】

分析結果

目標値 72.2% 市平均正答率 73.4% <2年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ①「ものがたりの内よを読みとる」では、目標値を7.1ポイント上回っている。
- ②「ちらしの内よを理かいする」では、目標値を5.9ポイント上回っている。
- ①「話の内よを聞きとる」では、目標値と同等だが、話題に沿った質問をする設問において5.3ポイント下回っており、ねらいを明確にして話を聞くことに課題が見られる。
- ②「作文」では、目標値を5.8ポイント下回っている。無解答率が23.0%と高いことから、どのように書いたらよいか分からない児童が多かったと思われる。条件に合わせて、自分の考えが明確になるように、具体的に文章を書くことに課題が見られる。

指導改善の方策

① 大事なことを落とさずに話を聞き、話題に沿った質問をするために

この設問では、「やってみたいこと」についての話を聞き取り、話題に沿った質問をすることが求められている。事柄の順序を意識しながら、「何について」の話なのかを捉えていなかったり、「何を」「どのように」質問すればよいか分からなかったりしていると考えられる。

指導に当たっては、相手の話を聞きながら、更に知りたいことは何かを考えることができるように指導し、話し手に質問できるようにすることも必要である。そこで、質問するための言葉を視点として提示し、質問の機会を設定することで、聞き手に質問する必要感を持たせることが有効である。

② 自分の考えが明確になるように、文章を書くことができるようにするために

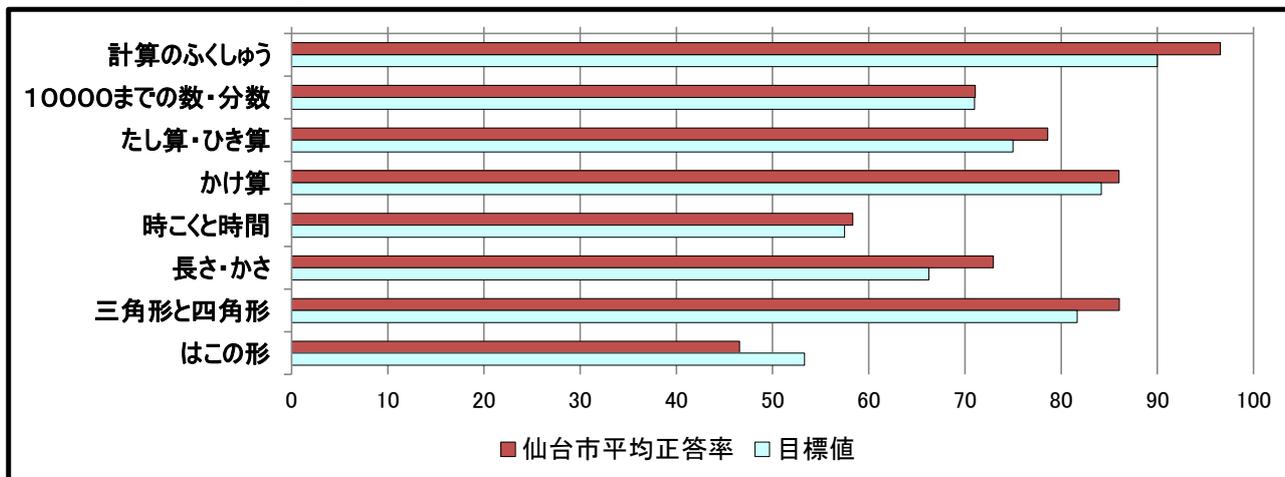
この設問では、与えられた条件の下、経験・想像したことの中から書くことを決め、自分の考えが明確になるように具体的に文章を書くことが求められている。無解答率が23.0%と高かったことから、与えられた条件の下で書くことに慣れていない児童が多かったと考えられる。

指導に当たっては、伝えたいことを決め、目的に応じて書けるようにするために、条件を提示し、「①できごと」「②くわしいようす」「③思ったこと」の構成で書くことの経験を積み重ねることが必要である。

【小学校3年生 算数】

分析結果

目標値 72.6% 市平均正答率 74.8% <2年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ①「計算のふくしゅう」では、目標値を6.6ポイント上回っている。
- ②「長さ・かさ」では、目標値を6.7ポイント上回っている。
- ①「時ごとと時間」の、与えられた条件を読み取り、到着時刻がいちばん早かった人が誰かを説明する設問においては、目標値を25.6ポイント下回っている。理由を適切に説明することに課題が見られる。
- ②「はこの形」の、直方体を作るときに必要な面の形と数を問う設問で、目標値を9.0ポイント下回っている。また、直方体の辺の長さから、決められた長さのテープを貼れるかどうかを説明する設問で、目標値を26.2ポイント下回っている。必要な条件を見極め、見えない部分にも着眼することに課題が見られる。

指導改善の方策

① 解決の理由を説明する表現力を育てるために

この設問では、ある時刻に対して、4例の何分前や何分後（何時間前や何時間後）の時刻を求め、その中から一番早かった時刻を選ぶことと、その理由を説明することが求められている。誤答分析から、最も早かった時刻を選択することはできても、その根拠を適切に説明できない児童が多かったと考えられる。指導に当たっては、何分前や何分後以外の時刻の前後を表す言葉をあえて使い、時刻や時間について正しい理解させたい。また問題解決型の学習を展開することで、考え方を説明する場面を意図的に設定し、表現力を育てるようにすることが重要である。

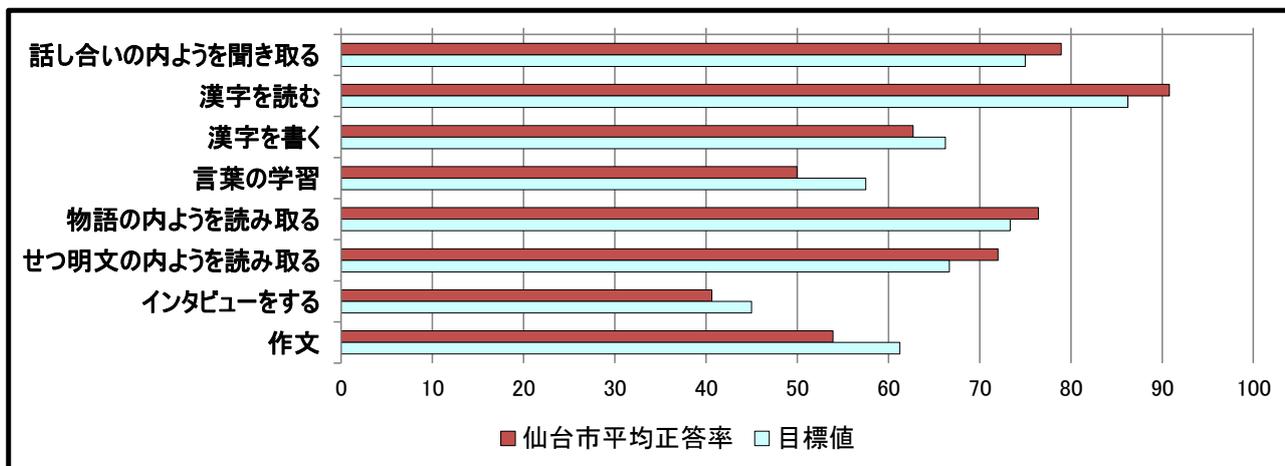
② 直方体を構成する面の形や数、辺の数などについて、多角的に捉えるために

この設問では例を基に、直方体を1周した長さを、必要な辺を選び、見えない部分にも着目して求めることが問われている。図ではテープを貼る面が2面しか見えていないため、見えない部分を計算に入れなかったり、問題解決に必要な辺の長さを計算に入れてしまったりした児童が多かったと考えられる。指導に当たっては、直方体には合同な面が2つつ3組の6面あること、同じ長さの辺が4本ずつ3組の12本あること、頂点は8つあることを確実に理解させたい。そのため、実際に箱（直方体）を作る活動の中に、合同な面を同じ色で塗ったり、同じ長さの辺も同じ色で色分けしたりする作業を取り入れる。できた直方体を様々な方向から観察し、隠れて見えない部分にも面や辺があることや、面や辺の位置関係などを具体的にイメージさせていくことが必要である。

【小学校4年生 国語】

分析結果

目標値 67.4% 市平均正答率 66.4% <3年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ① 「せつ明文の内よを読み取る」では、目標値を5.3ポイント上回っている。
- ① 「言葉の学習」の問題全体では目標値を7.5ポイント下回っている。特に、主語と述語についての基礎的知識を問う設問において、目標値を19.7ポイント下回り、文の構成の理解に課題が見られる。
- ② 「作文」では、目標値を7.4ポイント下回っている。無解答率が22.1%と高いことから、どのように書いたらよいか分からない児童が多かったと思われる。指定された長さや二段落構成などの条件に応じて作文を書くことに課題が見られる。

指導改善の方策

① 修飾語を含んだ文の主述の関係を確実に理解させるために

この設問では、修飾語が入った文の主語や述語を理解していることが求められている。主語と述語の順番の入れ替えもなく、比較的平易な構造の文である。

主語と述語については、2年生の学習内容である。指導に当たっては、2年生の学習を想起させ、主語と述語だけで構成される文例で主語・述語の用語や照応関係について振り返らせた上で、修飾語を含んだ文の学習の習熟に努める必要がある。

② 与えられた条件に沿って、文章を書くことができるようにするために

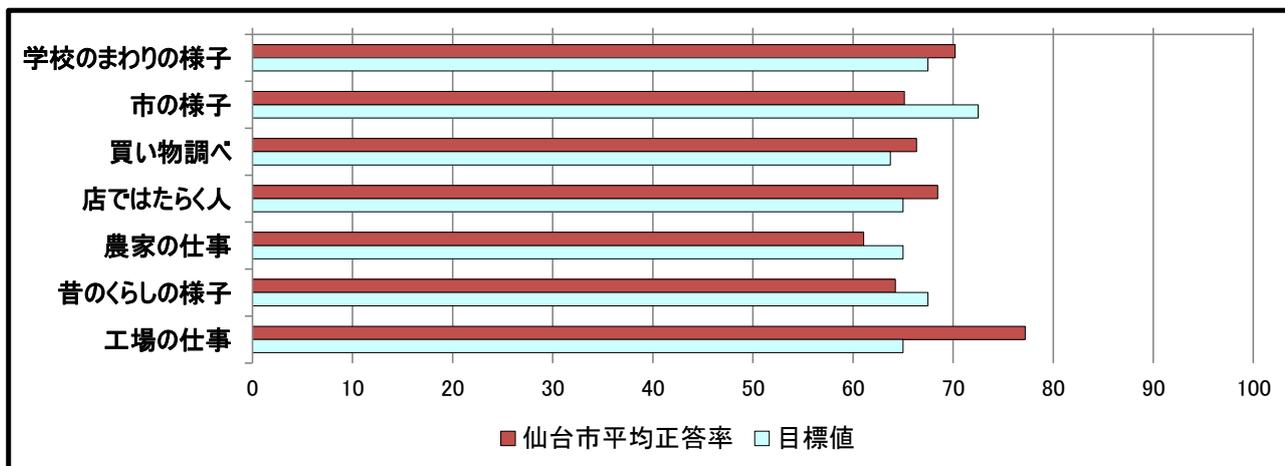
この設問では、与えられた条件の下、文章を書くことができることが求められている。無解答率が22.1%と高く、二つの方法からよりよいものを選択し、理由や事例を挙げて指定されて文字数と段落構成で自分の考えを書くことができていない解答も多く、課題が見られる。日頃から、条件を踏まえて文章を書くことの経験が少なく、設問の意味が分からなかったり、どのように書いたらよいか分からなかったりした児童が多かったと考えられる。

指導に当たっては、児童に考えや感想を書かせる時に、条件を提示し、それに合わせた文章を書かせる指導が必要である。

【小学校4年生 社会】

分析結果

目標値 67.4% 市平均正答率 67.6% <3年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

①「工場の仕事」では、目標値を12.2ポイント上回っている。

①「市の様子」では、地図中の駅から見た灯台の方角を読み取り、八方位で解答する設問において、目標値を26.5ポイント下回っている。地図の見方や八方位の習得に課題が見られる。

②「市の様子」では、地図中の交通の様子について、市の土地利用と関連付けて、地図を読み取る設問において、目標値を10.0ポイント下回っている。具体的な土地利用の様子を資料から読み取り、考えることに課題が見られる。

指導改善の方策

① 八方位を実際に活用する中でその便利さに気づき、繰り返し使いながら習得させるために

この設問では、示された絵地図を見て、地図中の駅から見た灯台の方角を読み取り、八方位で解答することが求められている。正答は「南東」で、正答率は48.5%と目標値の75.0%を大きく下回る。設問(2)「地図記号」及び、設問(3)「土地利用」の正答率は目標値を上回っていることから、地図記号は読めるが、地図の見方そのものでつまづいている児童が多いと推察する。

指導に当たっては、教室の壁面に東・西・南・北・北東・北西・南東・南西を表示することで、方位の中心となる地点を体感的に意識させることが有効である。また、地図の多様な見方を身に付けるために「仙台駅は学校から見て南東側にあります。では、仙台駅から見て、学校はどの方角にありますか」のように、特定の場所を中心とした方角の表し方も経験させたい。

② 地形や土地利用、交通の様子などを関連付けながら、地図を読み取ることができるようにするために

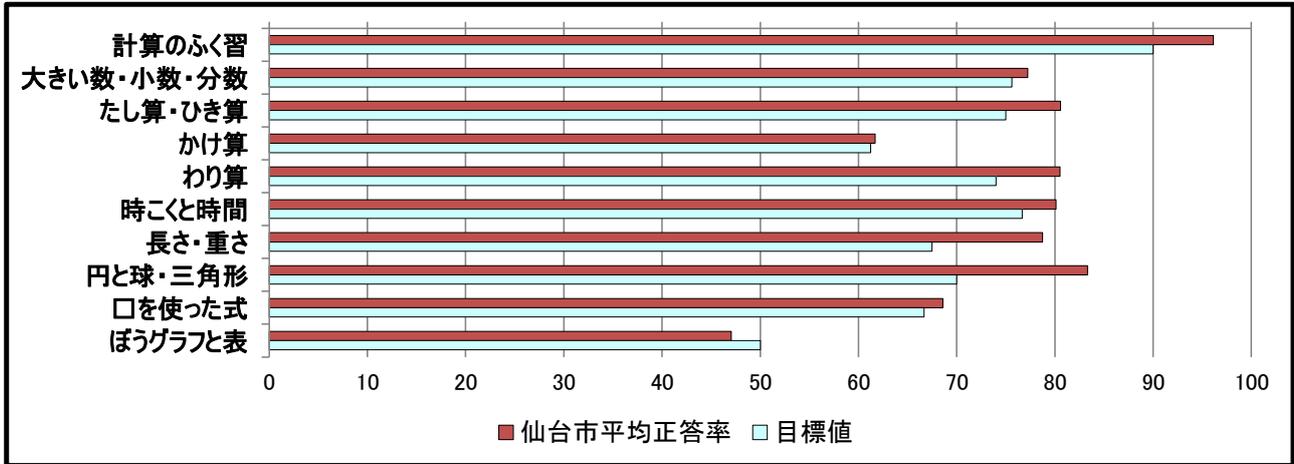
この設問では、地図中の交通の様子について、市の土地利用と関連付けて地図を読み取ることができるかが問われている。正答率が30.0%と低く、他の正答率と併せて考えると、地図記号や土地利用に関してはほぼ読み取れているものの、交通の様子と関連付けて考えることに課題があると推察する。

指導に当たっては、地形や土地利用、交通の様子などを関連付けながら地図を読み取る力を身に付けさせたい。例えば、地図上に置いた駒を自分に見立て、その場所で見える景色を友達に伝えたり、目的の場所に移動したりする「地図旅行」などの活動を通して、自然条件と社会条件の関わりについて考えさせ、移動しながら見える地形や土地利用の変化を連続的に捉えさせるといった活動を通して、地図を読み取る技能の定着につなげたい。

【小学校4年生 算数】

分析結果

目標値 71.1% 市平均正答率 75.7% <3年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ①「長さ・重さ」では、目標値を 11.2 ポイント上回っている。
- ②「円と球・三角形」では、目標値を 13.3 ポイント上回っている。
- ①「かけ算」では、かけ算の筆算の数の意味を問う設問において、目標値を 15.3 ポイント下回っている。筆算の位取りや書かれている数字が表す数の大きさの理解に課題が見られる。
- ②「ぼうグラフと表」では、棒グラフの最も大きい値に着目して、正しくグラフをかくための条件を説明する設問において目標値を 19.0 ポイント下回っている。棒グラフの目盛りの大きさの理解に課題が見られる。

指導改善の方策

① かけ算の筆算に書かれている数字の表す意味や位取りの理解を深めるために

この設問では、かけ算の筆算を行う上で、書かれている数字がどのような大きさの数を表しているか理解していることが求められる。誤答分析から、「30」という数が実際には「300」を表すことを理解していないために、表面的な数合わせによる「15が2こあること」としている児童が多いと考えられる。

指導に当たっては、筆算においては途中での計算で数字を書く位置を縦にそろえることで、正しく位取りができることを理解させる必要がある。位ごとに縦に数字をそろえて書くことで、正しい計算ができることを視覚的にも捉えられるようにすることが有効である。そして、2位数×2位数の筆算においては、かける数の十の位を計算している上から二段目が、なぜ一番右を空けて書くのかに触れながら、何も書かれていない空白にも意味があることを理解させることが重要となる。

② 棒グラフの目盛りの意味を理解し、正しく読んだりかいたりできるようにするために

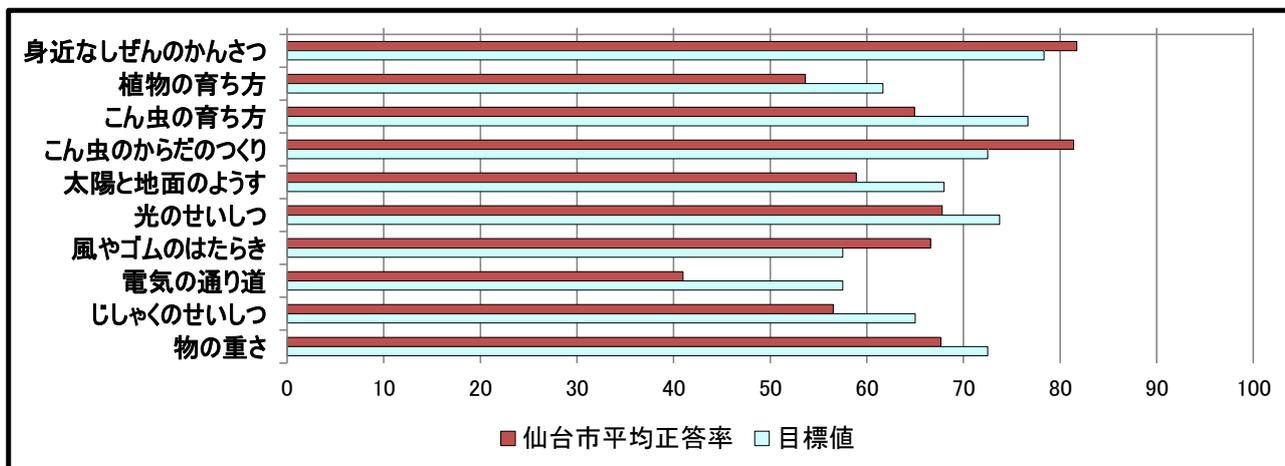
この設問では、指定されたデータの最大値を収めてかくために、棒グラフの縦軸の目盛りのマス目の1マスをいくつにすればよいか判断することが求められる。1目盛りはいつでも「1」であるという先入観や、1目盛りを「2」以上にしてグラフを作成するという経験が不足しているために、正しく説明ができなかったと考えられる。

指導に当たっては、棒グラフの目盛りの1マスが「1」を表しているのを押さえた上で、1マスが「2」以上のグラフについても、読ませたりかかせたりすることが重要である。扱うデータの数が大きければ、必ずしも1目盛りが「1」ではないことを押さえない。また、同じデータでも、縦軸の目盛りの取り方が変わると、形も変わって見えることにも気付かせたい。棒グラフを様々な条件や視点で読んだりかいたりしながら、理解を深めることが大切である。

【小学校4年生 理科】

分析結果

目標値 68.2% 市平均正答率 62.3% <3年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値を下回っている。(○：成果 ●：課題)

- ①「こん虫のからだのつくり」では、目標値を8.9ポイント上回っている。
- ②「風やゴムのはたらき」では、目標値を9.1ポイント上回っている。
- ①各大問における実験結果を基に考察する問題について、それぞれ目標値を下回っている。実験結果から論理的に考えることに課題が見られる。
- ②「電気の通り道」では、電気を通す導線のつなぎ方を問う設問等において、目標値を16.5ポイント下回っている。電気を通すものと、通さないものを区別すること、どのように回路を作るか捉えることに課題が見られる。

指導改善の方策

① 実験結果をより正しく共有するために

これらの設問では、実験方法の誤りに気付くこと、実験の過程に着目してどのような疑問を見いだせるか考えること、実験結果について数値を基に捉えることが求められている。誤答分析から、実験結果を基にして筋道を立てて考えることに難しさがあったものと考えられる。

指導に当たっては、上記の学習単元に具体的手立てを講じることに限らず、理科を初めて学習する児童に対して、年間を通して、問題解決の過程を大切にし、特に、実験結果の共有の場において、意識的に児童に思考を促すような発問等することで、論理的に考えることができるように指導したい。

② 電気が流れるつなぎ方を、正しく理解するために

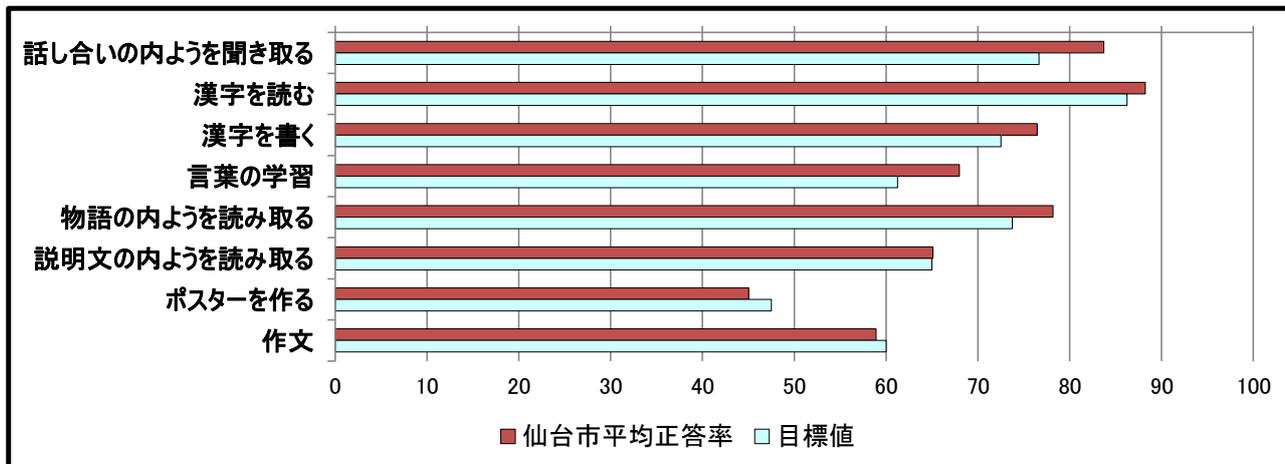
この設問では、回路に電気が流れるよう導線を正しくつなぐことと、豆電球がつかない事例を推測できるかが問われている。いずれも半数近くの児童が誤っており、選択式の設問であるにも関わらず、無解答率も1割を超えている。これは、設問中の図に、回路を見いだせないことに原因があると考えられる。

指導に当たっては、3～6年生の「電気」領域の学習において、児童自身が回路を表す図をかいた上で、実験回路を作ることを大切にしたい。

【小学校5年生 国語】

分析結果

目標値 69.1% 市平均正答率 72.0% <4年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ①「話し合いの内よを聞き取る」では、目標値を7.0ポイント上回っている。
- ②「言葉の学習」では、目標値を6.7ポイント上回っている。
- ①「説明文の内容を読み取る」では、文章を内容ごとに三つのまとまりに分ける設問において、目標値を12.1ポイント下回っている。文章の内容に目を向けながら段落相互の関係を読み取る力に課題が見られる。
- ②「ポスターを作る」では、情報を適切に読み取り、ポスターの文を書く設問において目標値を8.0ポイント下回っている。必要な情報を選び、読み取った内容を活用して文章にすることに課題が見られる。

指導改善の方策

① 段落のまとまりを理解しながら、説明文の内容を読み取るために

この設問では、文章の内容を的確に読み取り、段落のまとまりを理解しているかが問われている。選択肢2を選ぶ誤答が34.0%だったことから、文末や接続語だけに目が向いたり、第1段落は始め、最終段落が終わりだと判断したりして、説明文の内容を正しく捉えていないと考えられる。

指導に当たっては、書かれている内容を読み取って、段落のまとまりとして捉えさせていくことが大切である。さらに、段落のまとまりを捉えることで、文章を引用したり要約したりしながら、自分の考えを書くことができるようになる。

② 目的に合わせた資料を選んでポスターをつくるために

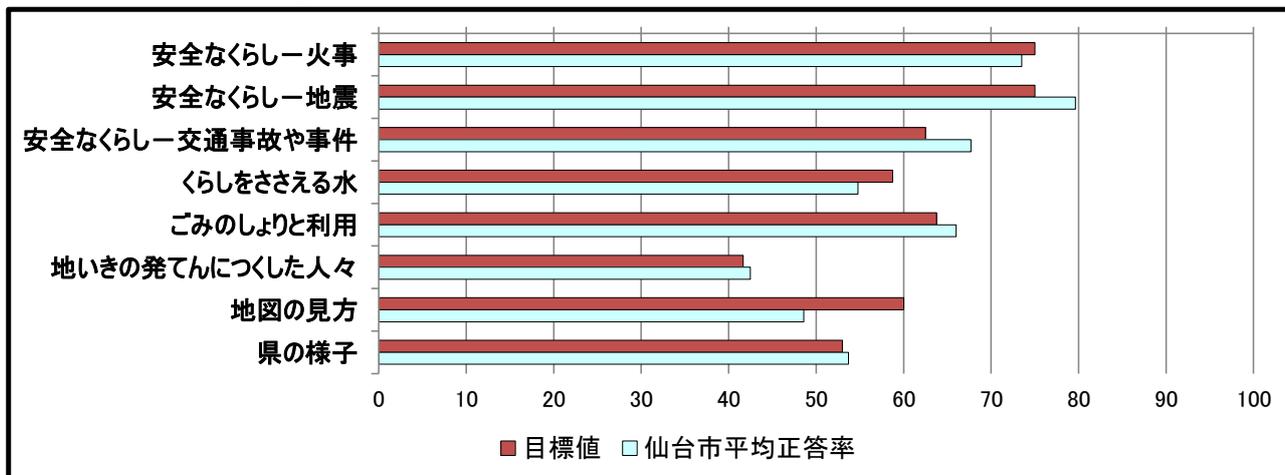
この設問では、資料から情報を読み取り、読み取った情報を基に、ポスターの形式に合わせて表現することをねらいとしている。誤答分析より、目的や形式に合わせた文章の書き方や、資料とポスターを関連付けた読み取り方が不十分であると考えられる。

指導に当たっては、示された資料と文や文章が関連付けられていることに注目させる。その上で、資料や文章で表されている内容は何なのかという点を明確に押さえさせ、目的や形式に合わせた文章の書き方や、資料の取り上げ方ができるような指導の工夫が必要である。

【小学校5年生 社会】

分析結果

目標値 58.4% 市平均正答率 57.7% <4年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「安全なくらしー交通事故や事件」では、目標値を5.2ポイント上回っている。
- ① 「くらしをささえる水」では、飲料水の確保のために、計画的に浄水場が建設されていることについて考える設問において、目標値を6.8ポイント下回っている。資料から読み取った情報を関連付けることに課題が見られる。
- ② 「地図の見方」では、地図中の距離を表す目盛りを用いて、2つの地点間の距離を求める設問において、目標値よりも20.1ポイント下回っている。地図に関する知識の定着に課題が見られる。

指導改善の方策

① 資料から読み取った内容を関連付けて考えることができるようにするために

この設問では、資料を読み取って飲料水のために計画的に浄水場が建設されていることを判断することが求められている。誤答分析から、1や2を選んだ24.8%の児童は、資料の見方が十分でないことが考えられる。4を選んだ24.3%の児童は、資料から読み取ったことを関連付けて考えられていないとともに、浄水場とは飲料水を作る施設であるという知識が十分に定着していないことが考えられる。

指導に当たっては、資料から情報を読み取る技能を高めるとともに、読み取った情報を関連付けて考える場を設ける必要がある。

② 地図中の2点間の距離を表す目盛りを活用できるようにするために

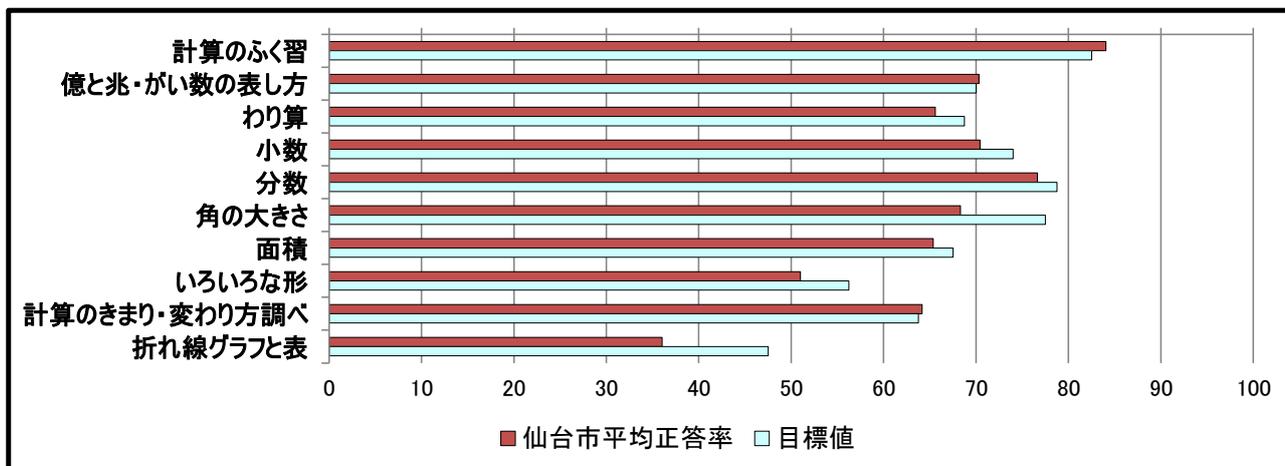
この設問では、地図中の距離を表す目盛りを目安に指定された施設を見付けることが求められている。誤答分析から、1や2を選んだ児童は目盛りの使い方を十分理解していないことが考えられる。4を選んだ児童は、寺と神社を表す地図記号の理解が十分ではないことが考えられる。地図から情報を収集するための技能としては、記号や方位、縮尺についての理解が必要である。縮尺に関する知識は、高学年の学習でも必要となるものである。

指導に当たっては、地図には縮尺というものがあることを理解させるために、児童にとって身近な地域の地図を使って指導すること。縮尺の目盛りの使い方を身に付けさせるために、実際の地図を使った測り方を指導することや、授業で地図を扱う際に繰り返し取り組ませることが考えられる。

【小学校5年生 算数】

分析結果

目標値 68.7% 市平均正答率 65.7% <4年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ①「計算のふく習」では、目標値を1.5ポイント上回っている。
- ②「計算のきまり・変わり方調べ」では、目標値を0.4ポイント上回っている。
- ①「わり算」では、暗算の仕方を考える設問において、目標値と同等であるが、無解答率が16.1%と高くなっている。乗法九九を活用して、3位数のわり算を工夫して計算することに課題が見られる。
- ②「折れ線グラフと表」では、目標値を11.5ポイント下回っている。折れ線グラフと棒グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する設問では、無解答率が37.3%と高く、各グラフを読み取り、それを根拠に説明することに課題が見られる。

指導改善の方策

① 暗算の仕方を工夫し、暗算することができるようになるために

この設問では、簡単な除法計算において3位数の分け方を工夫すれば暗算で求められることを、順を追って説明することが求められている。例題を基に、乗法九九を利用して答えを出すために数をどのように分解するかが問われているが、分けた数が乗法九九とどのように結び付いているのか理解していないため、立式できなかったものと考えられる。

指導に当たっては、被除数である3位数をどのように分けると乗法九九を利用できるか、操作的活動を取り入れることが、特に初期段階において有効と考える。数字だけの数の分解では理解できない児童がいることが予想されるため、10のまとまりや100のまとまりを基にすると、3位数でも乗法九九を利用できることを暗算の学習でも取り入れていく。数のまとまりを視覚的に理解させて、数の分解をイメージ化させることが大切である。

② グラフを読み取り、論理的に記述できるようになるために

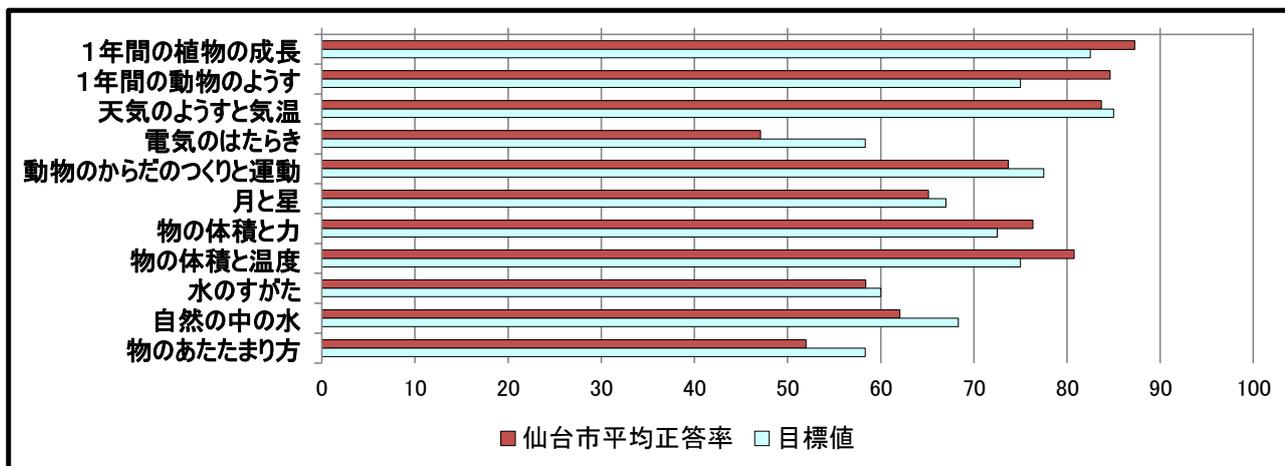
この設問では、グラフを読み取り、提示された文との矛盾点を見つけ、それを根拠に説明することが求められている。市平均正答率は17.9%と低く、同じグラフ内にある棒グラフと折れ線グラフからデータの変化を正確に読み取ることができなかったことと、データから見付けた矛盾点を論理的に説明することができなかったことの二つに課題があると考えられる。

指導に当たっては、「グラフのデータを正確に読み取ること」「読み取ったことを説明するポイントを確認する等、相手に伝わるように表現を吟味すること」と段階的な指導を通して、正確に説明できるようにすることが必要である。なお、読み取ったことを的確に説明する力は、年間を通して計画的に、繰り返し指導し、身に付けさせることも重要である。

【小学校5年生 理科】

分析結果

目標値 69.0% 市平均正答率 67.6% <4年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「1年間の動物のようす」では、目標値を9.6ポイント上回っている。
- ② 「物の体積と温度」では、目標値を5.8ポイント上回っている。
- ① 「月と星」では、示された方位から他の方位を推測する設問において、目標値を9.1ポイント下回っている。天体の観察を行う際の方位の理解について課題が見られる。
- ② 「自然の中の水」では、容器にふたがあると、蒸発した水は出ていかず、内側に水滴がつくことを理解しているかを問われる設問において、目標値を15.4ポイント下回っている。容器内の水位と容器内の水蒸気量とを関連付けて判断することにおいて、課題が見られる。

指導改善の方策

① 方位を意識した観察を充実させるために

この設問では、記録用紙上で示された方位から他の方位を推測することが求められている。誤答分析から、「ア…南 イ…東」と解答した割合が49.2%で、約半数であった。記録用紙上の「南東」の文字と、選択肢の文字の並びが誤答を招きやすいと考えられる。また、実際に方位を確かめながら観察を行う活動が不十分であることが方位について定着しにくい原因だと推察できる。

指導に当たっては、天体等の観察で方位を調べるために方位磁針を用いるが、児童の使用の実態に差があり、観察に支障が生じることが予想される。それを受けて、方位磁針を使う際に補助的な教材を作成・活用することで、方位磁針の使い方や方位の理解についての定着を図り、指導の改善を目指す。

② 密閉容器の中での水の蒸発と全体の水の量について理解するために

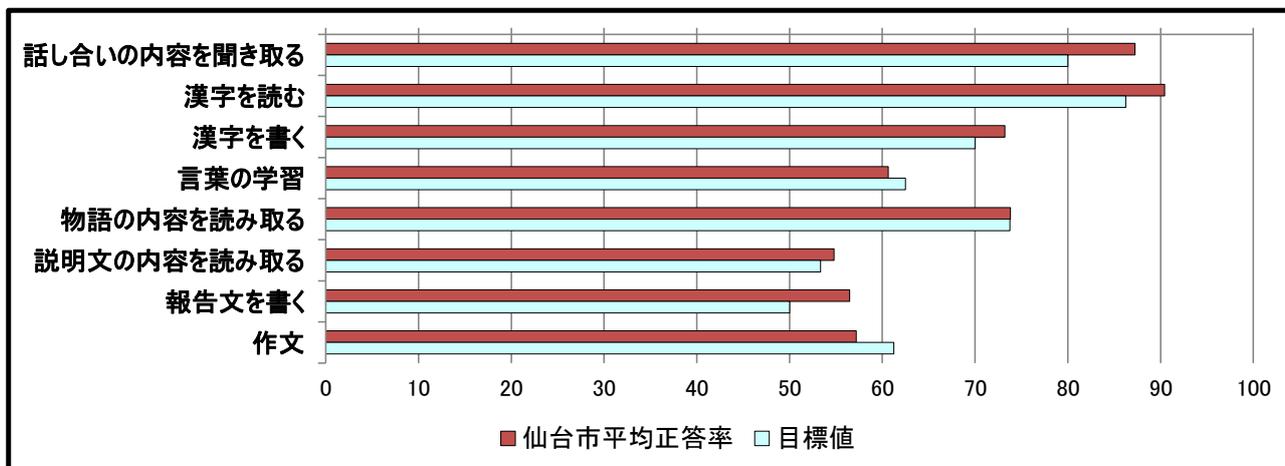
この設問では、密閉された容器の中で蒸発した水は外へ出ていかず、容器の中の水の量は変わらないということを理解しているか問われている。誤答分析から、選択肢3「図2の(あ)と同じくらいへり、内側に水てきがついていた。」を選んだ児童の割合は、32.9%と高かった。この結果から、蒸発した水が容器内から出ていかないことは理解しているが、水の蒸発量と水位の変化の程度について、目的意識を持った観察が不足している傾向があると思われる。

指導に当たっては、観察条件を密閉容器のみに限定して、容器内の水位を見やすいように工夫したり、実験開始時の水位の様子を写真で記録したりすることで、容器内の水の量について確実に捉えることができることを目指していく。

【小学校6年生 国語】

分析結果

目標値 68.4% 市平均正答率 70.0% <5年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「話し合いの内容を聞き取る」では、目標値を7.2ポイント上回っている。
- ② 「報告文を書く」では、目標値を6.5ポイント上回っている。
- ① 「物語の内容を読み取る」では、目標値と同等であるが、文章の表現についての理解を問う設問では21.6ポイント下回り、無解答率も28.4%となっている。情景描写に目を向け、心情の変化を読み取る力に課題が見られる。
- ② 「作文」では、2段落構成で文章を書くことについては目標値とほぼ同等であったが、その他の条件も満たして書くことができた割合は、目標値を5ポイント以上下回っている。自分の意見を明らかにして書いたり、理由や事例を挙げ、指定された長さで文章を書いたりすることに課題が見られる。

指導改善の方策

① 物語文全体の内容を捉え、登場人物の心情を読み取ることができるようにするために

この設問では、「わたしの願い」を正確に読み取り、その気持ちが表現された文を見付けることをねらいとしている。わたしの「願い」を表す言葉が「にじ」という単語で表現されていることに気付く必要がある。「にじ」以外にも、文中には登場人物の心情が、天気等の情景描写に表現されているものがある。情景描写と登場人物の気持ちを重ねながら心情の変化を読み取ることに課題が見られる。

指導に当たっては、直接的に気持ちが書かれている部分だけでなく、地の文にも着目させる。そして、情景描写から、登場人物の心情を読み取らせる指導が必要である。

② 条件に沿って自分の意見を相手に伝えることができるようにするために

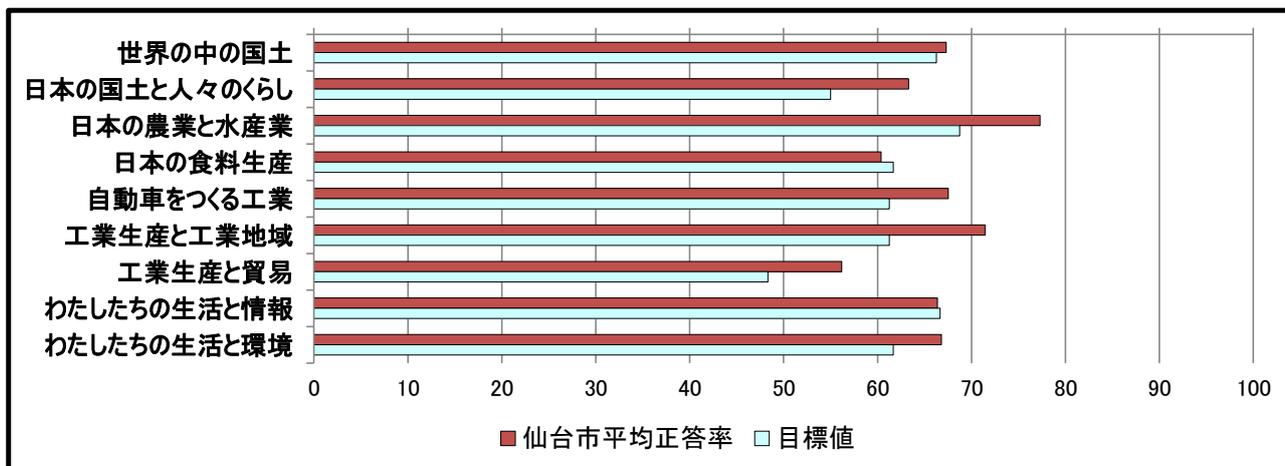
この設問では、物事の良さを相手に伝えるように書くことをねらいとしている。準正答率が高いことから、条件に沿って書こうと努めているものの、読み手に印象付ける文章を書くという点で課題が見られる。

指導に当たっては、読み手に印象付ける文章とはどのような文章なのかを考えさせた上で、様々な生活体験と関連させながら、理由付けをして文章にまとめていくように段階的に指導することが大切である。

【小学校6年生 社会】

分析結果

目標値 61.8% 市平均正答率 67.0% < 5年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値を上回っている。(○：成果 ●：課題)

- ① 「日本の農業と水産業」では、目標値を 8.5 ポイント上回っている。
- ② 「工業生産と工業地域」では、目標値を 10.1 ポイント上回っている。
- ① 「工業生産と貿易」では、日本の貿易相手国について複数の資料（グラフ）を読み取る設問において目標値と同等である。しかしながら、正しくグラフを読み取り、更に関連付けて考えることに課題が見られる。
- ② 「わたしたちの生活と情報」では、身の回りのメディアに関する特色を問う設問において目標値を 15.6 ポイント下回っている。メディアについて、基礎的な知識の定着に課題が見られる。

指導改善の方策

① 複数の資料を読み取り、関連付けて捉えさせるために

この設問では、「日本の主な貿易相手国・地域」に関する資料から、日本の主な輸出入の相手国や地域、それぞれの輸出入額が全体に占める割合を読み取るとともに、情報を関連付けて判断することが求められている。正答率は 40.1% と低い上に、誤答の選択肢に偏りがなく分散していることから、円グラフを正しく読み取り、関連付けて考えることに課題があるものと推察される。

指導に当たっては、まず、グラフの見方について確認する。そして、日本の主な輸出入相手国や地域が示された資料を基に、一つ一つの資料から読み取れることを詳しく確認した上で、それらの情報を関連付けて考えさせることが大切である。資料の読み取りの際には、「一番〇〇している国」、「日本と相手国との輸出入額の割合の比較」など、読み取る視点を与えることで、資料を活用する力を身に付けさせたい。

② 共通点や相違点からメディアの特色を理解するために

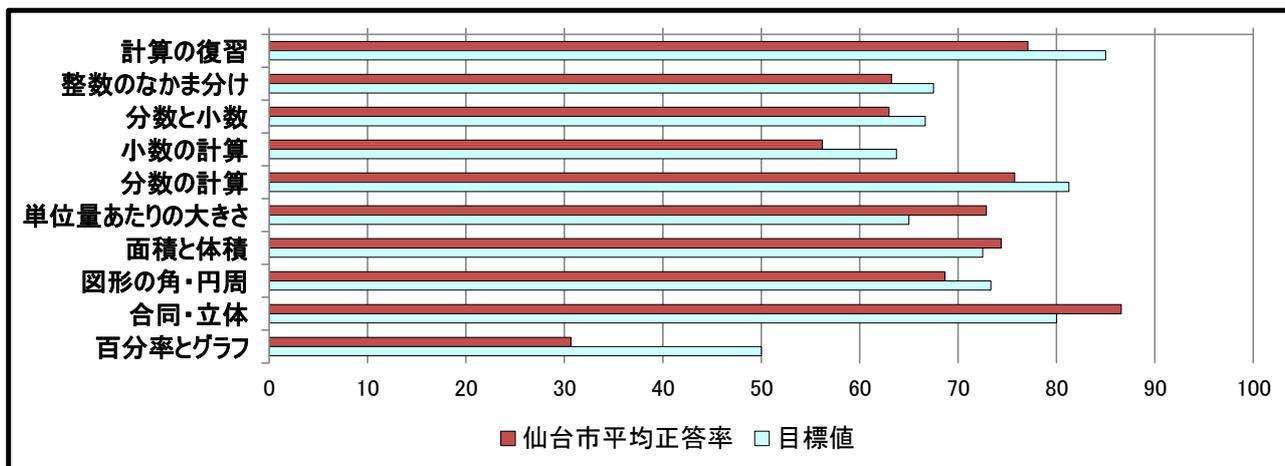
この設問では、メディアの種類とメディアが発信している情報の種類、メディアの特色を理解しているかが問われている。正答率は 64.4% と決して低くないが、目標値は 80.0% と設定されていることから、情報化社会の基本的知識として想定されていたものであることが分かる。無解答率も 14.4% と高い数値を示しており、「文字」がメディアの情報の種類と認識していない児童が多いと考えられる。

指導に当たっては、身の回りの様々なメディアについて想起させ、それらがどのように情報を伝えているのかを考え、整理させたい。また、伝えた方（情報の種類）だけではなく、伝わるまでの時間や正確さなど、他の特色も併せて捉えさせることで、各メディアの特徴やよさ、共通点や相違点などに気付かせたい。具体物を用いて比較させることができれば、より実感を伴った理解につながると考える。

【小学校6年生 算数】

分析結果

目標値 68.2% 市平均正答率 62.8% < 5年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値を下回っている。(○：成果 ●：課題)

- ① 「単位量あたりの大きさ」では、目標値を7.9ポイント上回っている。
- ② 「合同・立体」では、目標値を6.6ポイント上回っている。
- ① 「小数の計算」では、図を使って小数の除法の文章問題に合った式を立式する設問において、目標値を14.4ポイント下回っており、問題を正しく把握して数直線図に表したり、それを活用して立式したりすることに課題が見られる。
- ② 「百分率とグラフ」では、基準量と比較量を比べて、発言が正しいか根拠を示して説明する設問において、目標値を32.0ポイント下回り、無解答率は64.6%と高い。割合について理解し、情報を適切に読み取って説明することに課題が見られる。

指導改善の方策

① 文章問題から数直線図に表し、図を手立てに立式できるようにするために

この設問では、示された図から文章問題に合った式を立式することが求められている。選択肢の中から文章問題に合う数直線図を適切に選ぶことはできていても、正しく立式することができた児童は45.6%と低く、無解答率も12.7%と課題が見られた。立式する際に、数直線図を適切に読み取り、立式へつなげることができなかったと考えられる。

指導に当たっては、問題から必要な情報を読み取り、自分で数直線図に表すことができるようにすることが大切である。その上で、図を手掛かりに立式できるように繰り返し指導することが必要である。

② 与えられた情報を正しく読み取り、読み取ったことを根拠にして説明できるようにするために

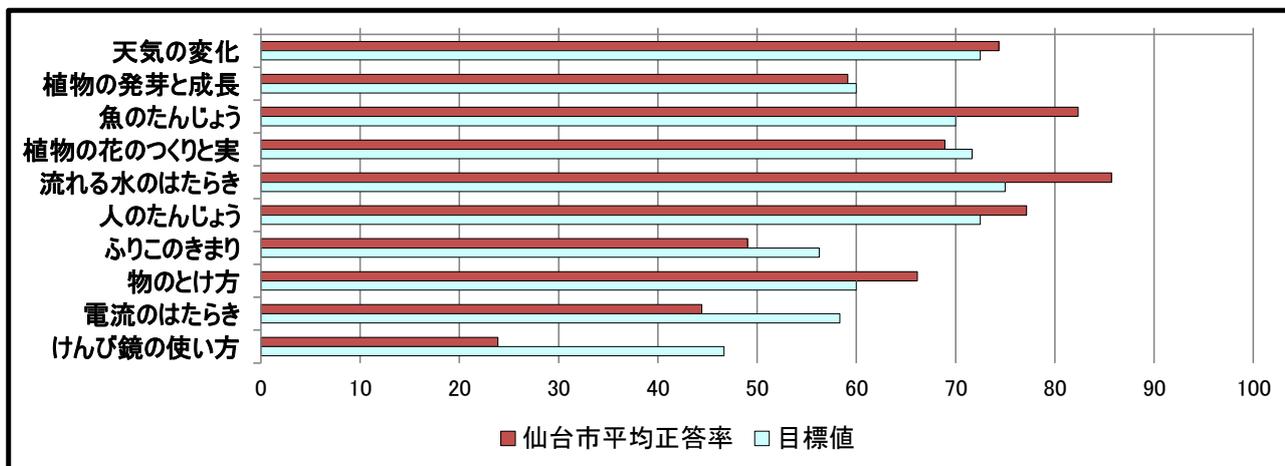
この設問では、示された表と帯グラフを読み取り、グラフ1が西町のグラフであることを、言葉や数を根拠にして説明することが求められている。目標値が40.0%に対し、市平均正答率は8.0%と低い。表から必要な情報を整理して割合を求めたり、基準量と比較量に着目したりするなど割合についての理解が十分ではなかったと考えられる。無解答率も64.6%と高いことから、資料から必要な情報を読み取れなかったり、どのように説明したりすればよいか分らなかったとも考えられる。

指導に当たっては、基準量と比較量の2つの数量の関係を理解できるようにすることが大切である。その上で、帯グラフや円グラフから割合を読み取り、読み取ったことを比較する学習を繰り返し行うことも必要である。

【小学校6年生 理科】

分析結果

目標値 63.9% 市平均正答率 62.5% <5年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ①「魚のたんじょう」では、目標値を12.4ポイント上回っている。
- ②「流れる水のはたらき」では、目標値を10.7ポイント上回っている。
- ①「けんび鏡の使い方」では、顕微鏡を使用する上での正しい手順を問う設問において、目標値を25.7ポイント下回っている。顕微鏡の正しい使い方の理解と習得について課題が見られる。
- ②「ふりこのきまり」では、ふりこの長さの条件制御を見直す設問において、目標値を5.2ポイント下回っている。ふりこの長さや往復する時間の関係から実験の条件を見直し、実験方法を改善することに課題がある。

指導改善の方策

① 顕微鏡を正しい手順で使うことができるようにするために

この設問では、顕微鏡の正しい使い方について理解しているかが問われている。誤答分析から、4つの操作を正しい手順に完全に並べることができなかった児童が83.4%であり、顕微鏡の正しい使い方の理解と習得に課題が見られる。

指導に当たっては、まずは顕微鏡下で観察可能な「ミクロの世界」に興味を持たせることや、なぜその手順で操作するのか、一つ一つの操作の意味を理解させることに重点を置く。日頃から理科室に「顕微鏡観察コーナー」のようなスペースを設け、身の回りの物を顕微鏡で観察するとどのように見えるか展示したり、壁面に顕微鏡の使用手順を掲示して学ばせたりするなどの工夫も必要である。

② ふりこの長さが変化してしまうことを理解するために

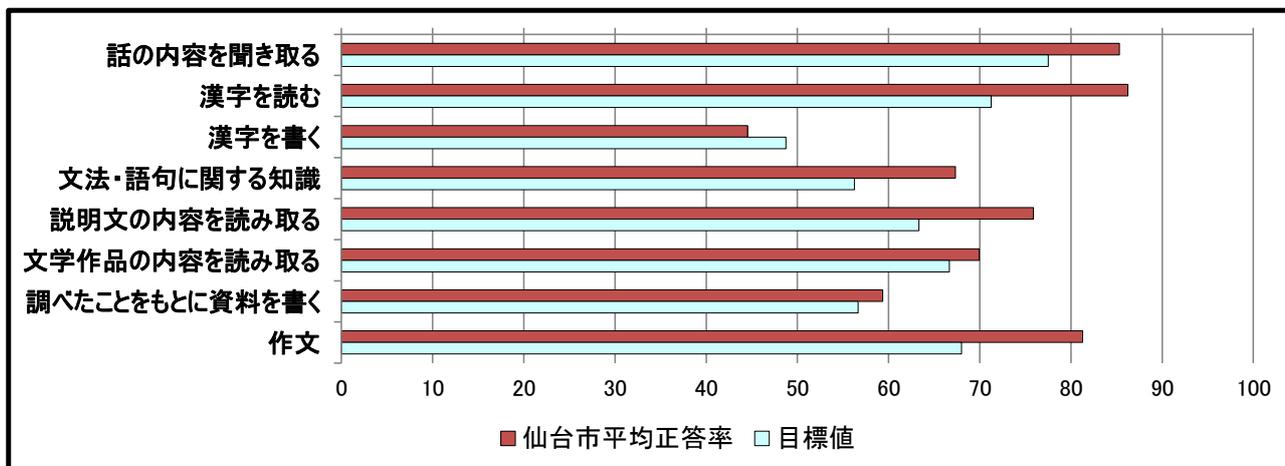
この設問では、図を見て、実験方法の誤った箇所を見付け、説明することができるかを問われている。ひもの長さや、ふりこの長さの違いを理解していることが必要である。問題の表から、往復する時間が長くなっていることから、ふりこの長さが変化したことに気付くことができるようにしたい。

指導に当たっては、ふりこの長さや往復する時間の関係を正しく捉えられるように、ふりこ全体の長さが変わると往復する時間も変わる体験活動を行い、実感を伴った理解ができるようにする。実験方法を確認する場面では、おもりの付け方の違いによる変化を丁寧に扱い、誤ったおもりの付け方では条件がどのように変わるか、理由まで考えさせるようにすることが有効だと考えられる。

【中学校 1 年生 国語】

分析結果

目標値 63.8% 市平均正答率 71.8% < 6 年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値を上回っている。(○：成果 ●：課題)

- ① 「漢字を読む」では、目標値を 14.9 ポイント上回っている。
- ② 「作文」では、目標値を 13.3 ポイント上回っている。
- ① 「文学作品の内容を読み取る」の登場人物の心情を捉える設問では、目標値を 9.5 ポイント下回っている。文章を最後まで読み、問われている部分を見付けることに課題が見られる。
- ② 「調べたことをもとに資料を書く」の自分の考えが伝わるように図表を用いる設問では、目標値を 16.7 ポイント下回っている。資料と文章を対応させて読み取ることに課題が見られる。

指導改善の方策

① 登場人物の心情を読み取ることができるようにするために

この設問では、文学作品を読み、登場人物の心情を読み取ることが求められている。選択肢 1 を選ぶ児童が 40.6% と多く、文章の全体から読み取るのではなく、一部分だけを読んで解答したものと考えられる。

指導に当たっては、登場人物の心情を行動や会話、情景描写などから読み取らせる。また、物語文全体を通して登場人物の心情の変化や物語の主題等を読み取らせるよう指導を工夫することが大切である。

② 資料を活用し、自分の意見を効果的に伝えるために

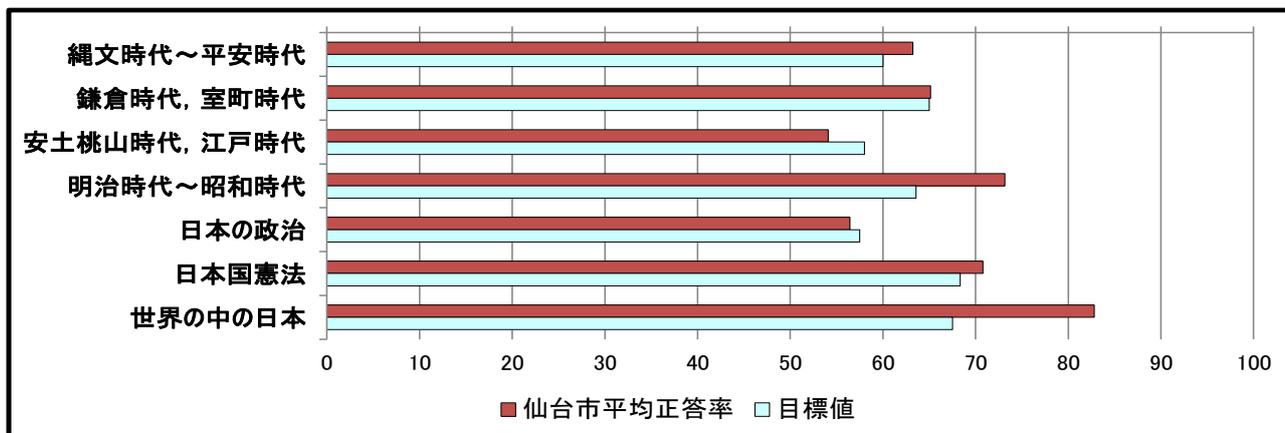
この設問では、調べたことを発表する際に、そのフリップを使用する目的を文章から読み取ることが求められている。描かれている絵から分かることを読み取り、文章のどの部分を補っているのか考えることができなかったと考えられる。

指導に当たっては、用いる資料の効果と、資料が自分の意見のどの部分を補っているのかを考えさせることが大切である。

【中学校 1 年生 社会】

分析結果

目標値 62.2% 市平均正答率 65.5% < 6 年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値－5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値＋5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ①「明治時代～昭和時代」では、目標値を 9.5 ポイント上回っている。
- ②「世界の中の日本」では、目標値を 15.3 ポイント上回っている。
- ①「安土桃山時代～江戸時代」の複数の資料を比較し、蘭学について把握する設問では、目標値を 7.9 ポイント下回っている。複数の資料を正しく読み取り、違いについて考えることに課題がある。
- ②「安土桃山時代～江戸時代」の複数の資料を基に、豊臣秀吉の政治について考察する設問では、目標値を 4.7 ポイント下回り、無解答率が 21.6%であった。資料相互の関連を踏まえて、表現する力に課題が見られる。

指導改善の方策

① 複数の資料を比較し、知識・理解の定着を図るために

この設問では、複数の資料や説明文を基に「解体新書」の特徴の組合せを判断することが求められている。分析により、誤答が資料Aを選択する選択肢1, 2に37.7%の児童が解答している。1を選ぶ理由としては、「解体新書がオランダの医学書を翻訳して作られた」という理解が不十分であるということが挙げられる。また、2を選ぶ理由としては、「人体の内部を正確に描いているのが解体新書である」と理解しているものの、「正確に」という言葉の捉えを誤り、人体の内部の名称が詳しく載っている資料Aを選んでしまったためと推察される。

指導に当たっては、蘭学の広がりや寄与した人物として杉田玄白らを取り上げ、その業績を調べさせる。その際に、中国の医学書と解体新書の医学書を比較する活動を行わせる。杉田玄白らが、より人体の内部を正確に描いたオランダの医学書に驚き、苦心を重ねて翻訳活動を行なうことで解体新書を出版した過程を押さえ、蘭学の発展のきっかけとなったことを捉えさせる。それぞれの医学書の共通点や相違点をベン図に整理させ、分かったことを文章で表現させる中で、解体新書に対する理解を深めさせたい。

② 複数の資料を関係付け、考察する力を高めるために

この設問では、豊臣秀吉の政策によって兵農分離が進んだことを、複数の資料を関係付けて考察する力が求められている。正答率が35.3%と低いことから、豊臣秀吉が行なった政策と社会に与えた影響との関係性について考察する力に課題があると考えられる。また、無解答率が21.6%と高いことから、検地や刀狩のそれぞれの目的や内容理解について十分でないことも推察される。併せて「武士」や「百姓」といった語句の意味理解についても課題があると考えられる。

指導に当たっては、検地や刀狩の内容と目的について表に整理し、整理した表の項目同士を関係付ける活動を通して、今までは区別があまりなかった武士と百姓の身分が明確に区別されたことを自分なりの言葉で表現させる。表の項目同士の関係性を考えさせることで思考し、考察する力が高まると考えられる。また、表に整理させる中で、武士や百姓といった語句を全体で確認させることにも留意していく。

【中学校 1 年生 数学】

分析結果

目標値 67.6% 市平均正答率 72.5% < 6 年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「単位量あたりの大きさ・平均」では、目標値を9.1ポイント上回っている。
- ② 「いろいろなグラフの読み取り」では、目標値を8.3ポイント上回っている。
- ① 「単位量あたりの大きさ・平均」では、単位量あたりの値を求める式が求める大きさを説明する設問において、無解答率が19.1%と高く、単位量あたりの大きさを求めるための式の意味理解に課題がある。
- ② 「比と比例・反比例」では、比例の関係を x と y を使って式に表すことを問う設問において、目標値を19.3ポイント下回っている。三角形の求積の際の x と y の比例の関係を、式に表すことに課題がある。
- ③ 「いろいろなグラフの読み取り」では、もとにする量が同じとき、割合が大きいほうが比べる量が多くなることを、具体的に説明することを問う設問において、目標値を9.9ポイント下回っている。もとにする量と割合によって回収量を比較することを説明することに課題がある。

指導改善の方策

① 除法の式と商の意味を理解させるために

この設問では、単位量当たりの値を求める式がどのような大きさを求める式かを説明することが求められている。正答率が低く、無解答率が高かった原因として、(肉の重さの値) ÷ (値段の値) の式がどのような意味を持ち、その式によって求められる数量は何を表すかの理解が不十分であったことが考えられる。

指導に当たっては、単位量当たりの大きさを求める除法と商の意味を考えさせるために、式の意味と場面や図と言葉を関連付けて捉えさせる活動が考えられる。また、求めた商の意味を考え、それらを比較する活動が考えられる。その際、(÷除数)が肉の重さと値段の2つの数量を等分しているという操作の意味を表すことを理解させることが大切である。

② 文字を使って式に表し、整理させるために

この設問では、比例の関係を、 x と y を使って式に表すことが求められている。正答率が低く、誤答の中でも「 x や y の文字を使っているが等式が誤っている場合」の誤答率が高かった原因として、底辺や面積を文字として与えられた三角形の面積を求める式を、文字を使った式として想起することや、式を整理することができなかったことが考えられる。

指導に当たっては、文字を使って式に表し、式を整理することができるために、具体的な事象から数量の関係を捉え、文字に置き換える活動が考えられる。また、文字を使って表現することだけでなく、表現された文字式がどのような関係を表しているかを考える活動が考えられる。その際、文字の役割やその有用性についても意識させることが大切である。

③ 2つのグラフから必要な情報を読み取り、その情報を関連付けながら考察させるために

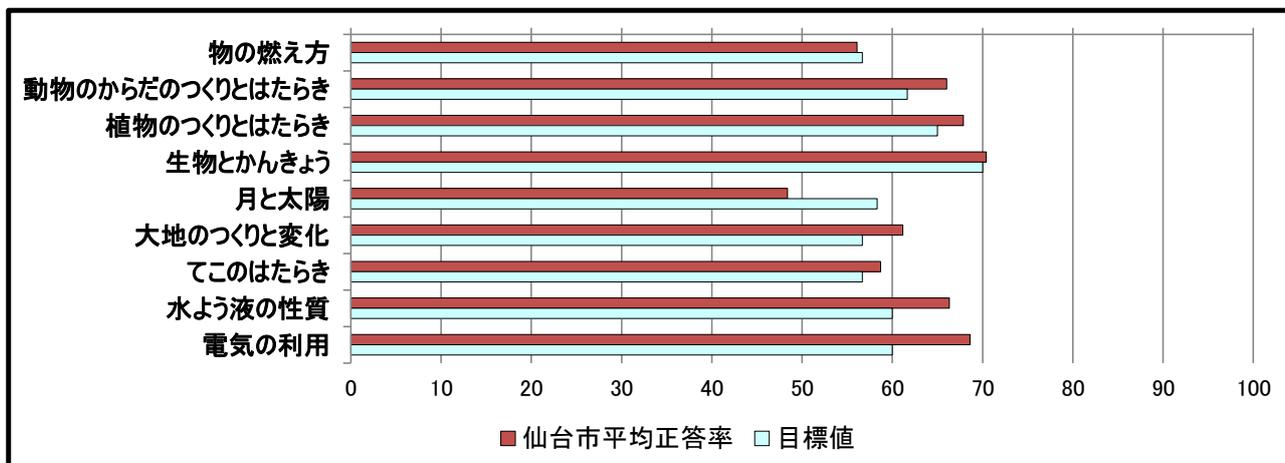
この設問では、もとにする量が同じとき、割合が大きいほうが比べる量が多くなることを具体的に説明することが求められている。正答率が低く、誤答の中でも選択肢①を選んでいるが、理由が正しくない割合が高かった原因として、複合的なグラフの2010年と2016年の値を比べた際、棒グラフは値が同じであり、折れ線グラフの値が大きいことから①を選ぶことができているが、それぞれのグラフが何を表しているかを読み取り、その情報を関連付けながら考察することが不十分であったと考えられる。

指導に当たっては、複合的なグラフから必要な情報を読み取り、その情報を関連付けながら考察させるために、割合を表すグラフと量を表すグラフについて、それぞれに対応する値がどこに示されているかを捉え、整理する活動が考えられる。その際、必要な情報について、ある量と割合を関連付けながら理解させることが大切である。

【中学校 1 年生 理科】

分析結果

目標値 60.9% 市平均正答率 63.3% < 6 年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値－5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値＋5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ① 「水よう液の性質」では、目標値を 6.3 ポイント上回っている。
- ② 「電気の利用」では、目標値を 8.6 ポイント上回っている。
- ① 「てこのはたらき」では、支点が力点と作用点の間にある道具を選ぶ設問において、目標値を 7.2 ポイント下回っている。てこを利用した道具の仕組みについての理解に課題が見られる。
- ② 「物の燃え方」では、実験結果から空気の流れが変化する理由を考える設問において、目標値を 14.9 ポイント下回っている。実験結果を基に、空気の流れができる理由を考え、表現することに課題が見られる。

指導改善の方策

① 身の回りにおいててこを利用した道具の支点、力点、作用点の位置関係を捉えさせるために

この設問では、身の回りにおいててこを利用した道具の中から、支点が力点と作用点の間にある道具を選択することが求められている。正答の「はさみ」を選択した児童が 42.8% で、作用点が支点と力点の間にある道具である「せんぬき」を選択した児童がそれを上回る 43.6% であった。これは、身の回りにおいててこを利用した道具の支点、力点、作用点の位置関係が理解できていないためであると考えられる。また、せんぬきを使用したことのある児童が少なくなっており、使用方法から支点、力点、作用点の位置関係を考えることができなかったことも原因の一つであると考えられる。

指導に当たっては、様々な道具を実際に使用し、支点と力点、作用点の位置を確認しながら仲間分けする体験を通して、てこを利用した道具は支点、力点、作用点の位置関係によって三種類に分かれることを理解させたい。

② 実験から分かることを基に空気の流れができる理由を考えさせるために

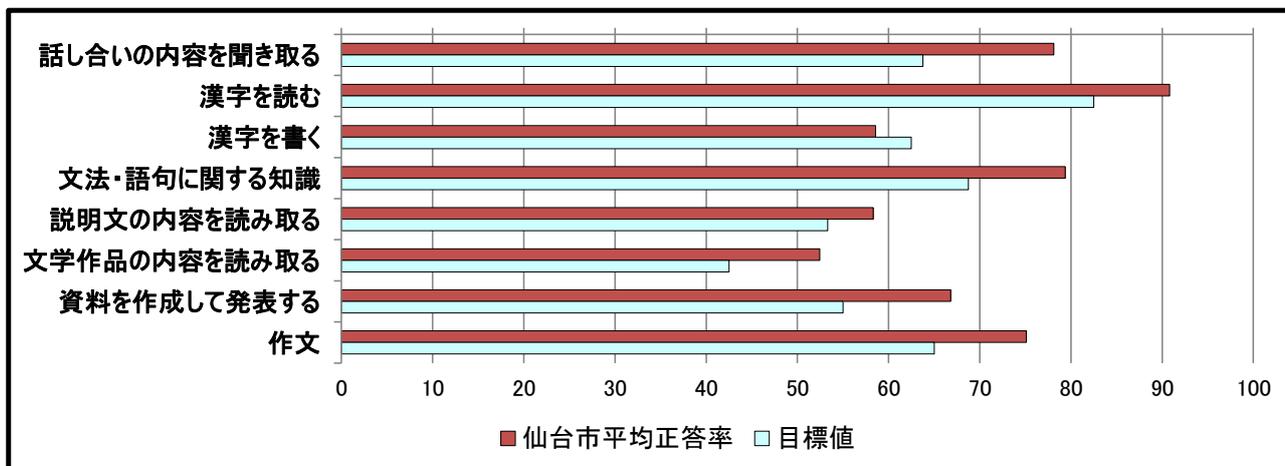
この設問では、二種類の実験結果を比較し、空気の流れが変化する理由を考えることが求められている。誤答分析から、実験結果を正確に捉えられず、考察に必要な情報を選択することができていないだけでなく、そこに含まれていない情報から解答している児童も多かったと考えられる。実験の目的を意識して情報を整理することができていないのは、複数の実験結果を用いて考察する経験が不足していることが原因として考えられる。

指導に当たっては、複数の実験結果を比較し、そこから分かることを基にして結論をまとめる経験を積み重ねていくことが必要である。

【中学校2年生 国語】

分析結果

目標値 62.3% 市平均正答率 70.6% < 1年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値を上回っている。(○：成果 ●：課題)

- ①「話し合いの内容を聞き取る」では、目標値を14.3ポイント上回っている。
- ②「文法や語句に関する知識」では、目標値を10.6ポイント上回っている。
- ③「資料を作成して発表する」では、目標値を11.8ポイント上回っている。
- ①「漢字を書く」では、目標値と同等であるが、四問中二問が目標値を下回っていることから、小学校で学習した漢字を書くことに課題が見られる。
- ②「説明文の内容を読み取る」では、目標値と同等であるが、文章の構成や展開を捉える問題では、目標値を10.7ポイント下回っている。段落相互の関係や役割を捉えることに課題が見られる。

指導改善の方策

① 漢字学習を確かなものとするために

この設問では、小学校で学習した漢字を文脈に即して適切に、正しく書くことが求められる。「評価」は解答を書いているが間違いが多く、目標値を19.4ポイント下回っている。「拝む」は無解答率が約40%と高く、目標値を14.4ポイント下回っている。漢字を意味のあるものとして捉えることに課題が見られ、日常での生活体験が少ない言葉であることから、漢字に結び付けられなかったものと考えられる。

指導に当たっては、漢字が表意文字であることを再認識させ、部首の持つ意味や、形が表す意味について確認できるようにすることが必要である。また、日常動作や身の回りの事象そのものを表す語彙を充実させるために、生徒自身に短文を作らせながら、必要感を持って漢字を使用させる指導が必要である。

② 説明文の構成や展開を読み取らせるために

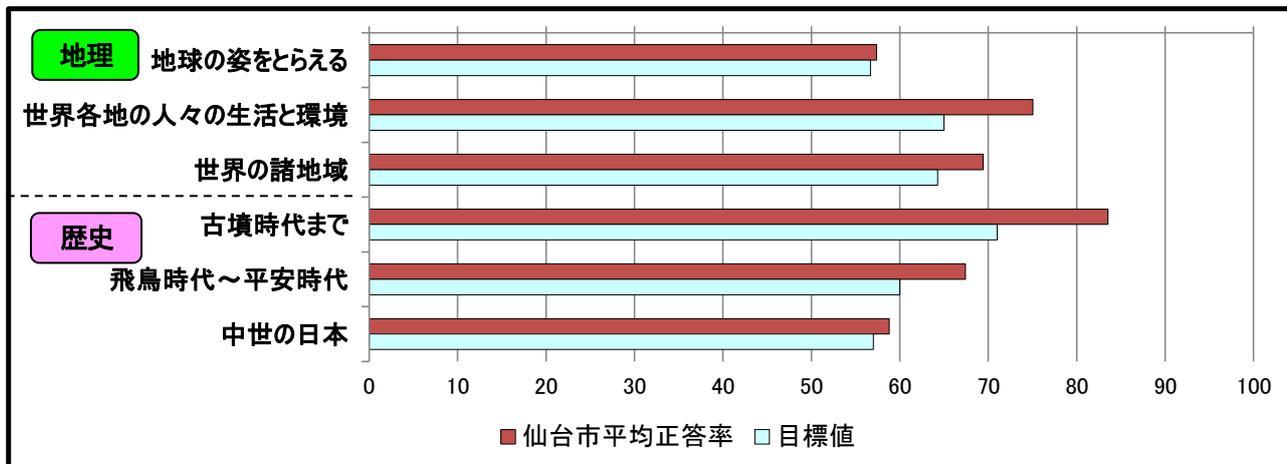
この設問では、説明文を構成する段落が、それぞれ前後の段落とどのような関係にあるか、全体の中でどのような役割を担っているかを読み取る力が求められている。誤答1を選択した生徒は、1～3段落の内容を理解せず、4段落のみを読んで解答したのではないかと考えられる。

指導に当たっては、説明文の大きな構成を捉えることを土台として、文章の中心的部分と付加的部分、あるいは事実と意見の部分の捉える過程で、段落相互の関係や役割を明らかにできるような指導が必要である。

【中学校2年生 社会】

分析結果

目標値 62.9% 市平均正答率 69.3% <1年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値を上回っている。(○：成果 ●：課題)

- ①「世界各地の人々の生活と環境」では、目標値を10.0ポイント上回っている。
- ②「世界の諸地域」では、目標値を5.1ポイント上回っている。
- ③「古墳時代まで」の歴史では、目標値を12.5ポイント上回っている。
- ①「世界の諸地域」では、目標値は上回っているものの、複数の資料を活用し、読み取った情報を基に考察する設問では、目標値と同等であるが、複数の資料を比較し、判断することが苦手な生徒が多く、課題が見られる。
- ②「中世の日本」では、目標値と同等であるが、複数の資料を基に日明貿易の特色について説明する設問では、無解答率が24.8%と高くなっている。このことから、複数の資料を関連付けて読み取ることや、歴史的事象の意義・背景を捉えることを苦手とする生徒が多く、課題が見られる。

指導改善の方策

① 複数の資料を活用し、読み取った情報を基に考察するために

この設問では、ヨーロッパ州の農業の特徴を、複数の資料を読み取り、資料ごとの比較を通して判断する能力が問われている設問である。誤答率の高い選択肢3では、すべての資料を丁寧に読み取った上で、資料同士を比較する必要があるが、複数の資料を関連付けて考察する力が不足していると考えられる。

指導に当たっては、世界の諸地域の学習の際に、複数の資料を読み取る視点を捉えさせるとともに、資料の比較を通して、地域ごとの特徴を考察する力を高めることが重要である。

② 複数の資料から歴史的事象の特色を捉えるために

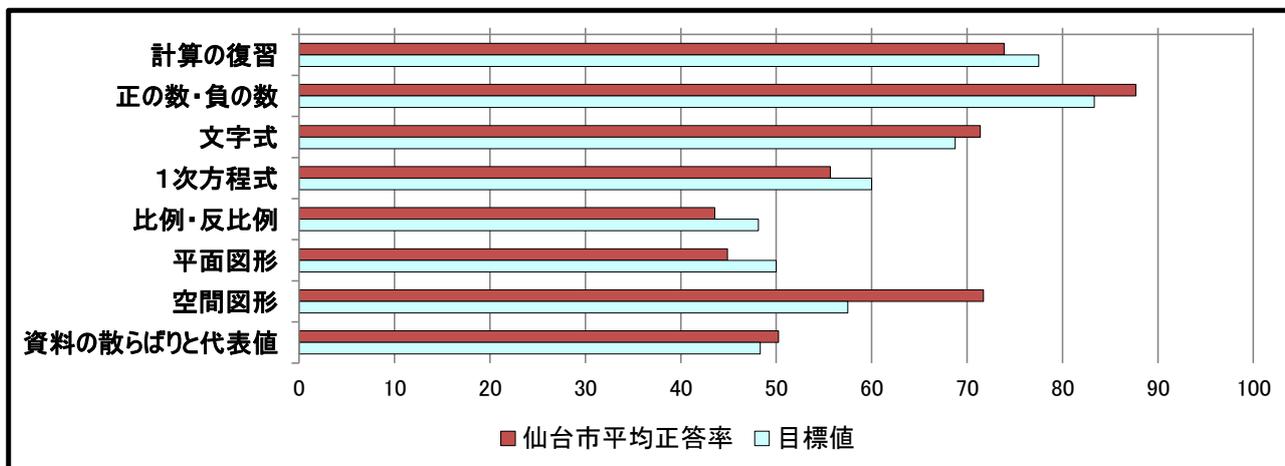
この設問では、複数の資料を基に、日明貿易における中国との関係性（朝貢関係）について説明することが求められている。無解答率が高いことから、複数の資料の情報を読み取る力が不十分であると考えられる。また、問題の会話文中で、古代の朝貢関係について言及されている部分があり、対外関係の歴史を時代ごとに比較、概観することが必要である。

指導に当たっては、資料を読み取る力を身に付けさせるために、単元の学習期間だけでなく、年間を通して年表やグラフ、写真資料など、様々な資料に触れる機会を設けていくことが必要である。また、中世の歴史であっても、政治史・産業史・外交史・文化史などのように、テーマごとに他の時代と比較させ、歴史的事象の特色を多角的・多面的な観点から捉えさせたい。

【中学校2年生 数学】

分析結果

目標値 58.1% 市平均正答率 58.5% <1年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ①「空間図形」では、目標値を14.2ポイント上回っている。
- ①「平面図形」では、目標値より5.1ポイント下回っている。特に、線分の垂直二等分線を作図し、三角形の面積を2等分する直線を作図する設問で、目標値を15.9ポイント下回っており、基本的な作図の方法を理解するのに課題が見られる。
- ②「資料の散らばりと代表値」では、目標値と同等であるが、度数折れ線の特徴を読み取り、その特徴について数学的に説明する設問で、目標値を14.6ポイント下回っており、無解答率も39.7%と高い。複数の資料を比較し、資料の特徴を読み取り、根拠を明確にして、説明することに課題が見られる。

指導改善の方策

- ① 線分の垂直二等分線を作図を利用して、三角形の面積を2等分する直線を作図することができるようにするために

この設問では、線分の垂直二等分線を作図し、三角形の面積を2等分する直線を作図することができることをねらいとしている。目標値40.0%に対して、正答率は24.1%と大幅に低くなっている。その要因として、作図をする際に、コンパスを使わず、定規で測定することで線分を2等分していることや三角形の底辺の中点を作図する際に、垂直二等分線を作図することに気付かない生徒がいたことが考えられる。

指導に当たっては、頂点Aを通る直線で三角形の面積を2等分するには、底辺の長さを等しくすればよいこと、底辺の長さを等しく分けるためには、線分の垂直二等分線を作図すればよいことに気付かせるような指導が大切である。

- ② 与えられたデータから必要な内容を読み取り、そこで考えた結果を説明する力を育成するために

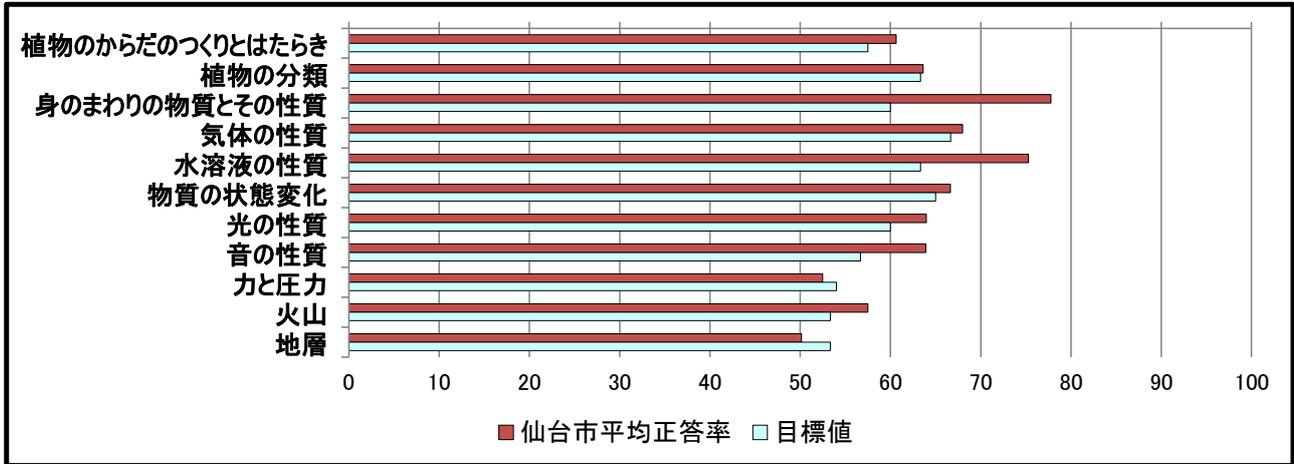
この設問では、与えられた度数折れ線から特徴を読み取り、その根拠を数学的に説明することが求められている。そのためには、与えられた度数分布表からは各階級での相対度数の違いを比較すること、度数折れ線からは違いを比較し、そこから全体の傾向をつかむことができる力が必要である。

指導に当たっては、度数分布表や度数折れ線、代表値などから、何が読み取れるかを授業の中で繰り返し取り上げ、それらの有用性を実感させる。また、読み取ったことを伝え合う活動を増やすことで、自分の考えを表現する力を育成する。なお、自分の考えを伝え合った後、新たな気づきや初めに考えたことの変化について、再度認識させる時間を確保し、それを言語化させることで、更に表現する力の育成を目指す。

【中学校2年生 理科】

分析結果

目標値 58.8% 市平均正答率 62.3% <1年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ① 「身のまわりの物質とその性質」では、目標値を 17.8 ポイント上回っている。
- ② 「水溶液の性質」では、目標値を 12.0 ポイント上回っている。
- ③ 「音の性質」では、目標値を 7.2 ポイント上回っている。
- ① 「力と圧力」では、力を矢印で表す設問において、目標値を 18.5 ポイント下回っている。
- ② 「地層」では、化石が堆積している地層から当時の環境を読み取る設問において、目標値を 6.6 ポイント下回っている。

指導改善の方策

① おもりがばねを引く力を正しく表すために

この設問では、おもりがばねを引く力を、矢印を使って表す際に作用点の位置を正しく表すことが求められており、正答した生徒は全体の 31.5%であった。

指導に当たっては、力には目に見えないため、力による現象は生徒にとって捉えにくいことから、単に作図の技能を習得させることではなく、常に力による現象を「力のはたらき（形を変える・運動の状態を変える・支える）」で考えることができるように指導の工夫を図りたい。また、力は、大きさ、向き、作用点の3つの要素をもつことについても「力のはたらき」から見いだし、力は矢印を使って表すことができるという理解につなげていく。目には見えない力を矢印で表すことが、力による様々な物体の様子やその変化を説明する上で有効であるということを、章展開を通して生徒が実感できるようにしたい。

② 地層から当時のようすを推測するために

この設問では、シジミやアンモナイトの化石から堆積した当時の年代や環境を推定することが求められている。アンモナイトの化石から堆積した当時の年代を正答できた生徒は、76.4%であったが、シジミの化石から堆積した当時の環境を正答できた生徒は 43.6%にとどまった。

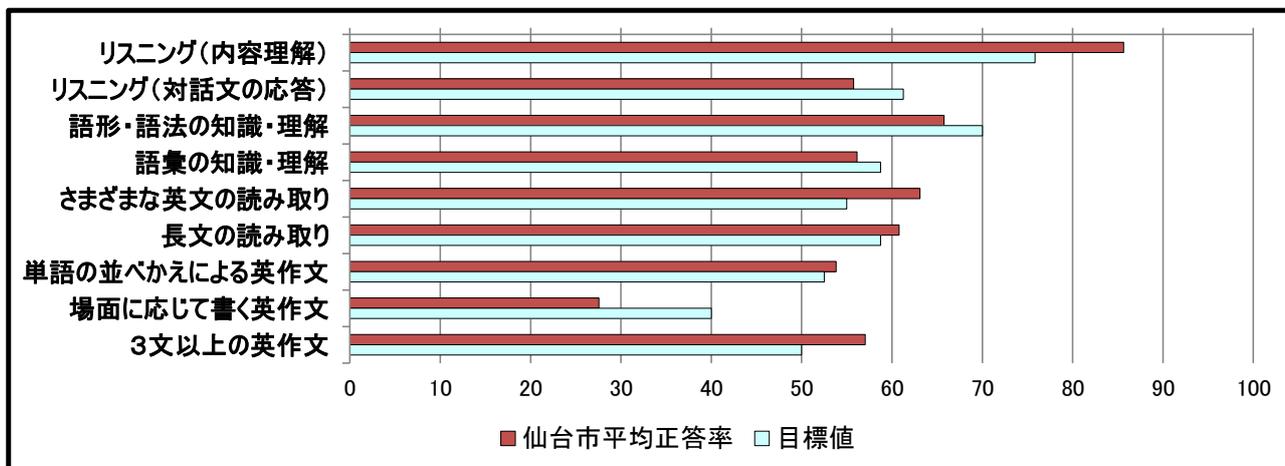
地層の学習は、そのでき方の規則性に加え、大地の変動や時間的な変化を関連付けて考えることが求められるため、難しさを感じる生徒も少なくない。

指導に当たっては、地層の重なりや広がりなどの規則性を見いだしたり、地層を構成する岩石やその中の化石を手掛かりとして、過去の環境や年代を推定したりしながら、大地の成り立ちや変化を探究的に読み取っていく活動を取り入れたい。

【中学校2年生 英語】

分析結果

目標値 60.3% 市平均正答率 61.8% <1年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ①「リスニング(内容理解)」では、目標値を9.9ポイント上回っている。
- ②「さまざまな英文の読み取り」では、目標値を8.1ポイント上回っている。
- ①「リスニング(対話文の応答)」では、目標値を5.6ポイント下回っている。対話の流れを理解し、適切に応答することに課題が見られる。
- ②「語形・語法の知識・理解」では、目標値と同等であるが、会話の内容を踏まえ、適切な語形や語法を選ぶ4つの設問のうち3問において目標値より下回っていることから、語形や語法の知識を会話につなげることに課題が見られる。

指導改善の方策

① 会話全体の内容を理解し、適切な応答ができるようにするために

この設問では、2人の対話の内容を聞き取り、話者の質問に対する適切な応答をすることが求められている。選択肢1を選ぶ生徒が34.7%と誤答の中で一番多く、Can youの表現に意識が向き、話し手の依頼であることを把握していなかったと考えられる。対話全体の内容を理解した上で、適切に応答することに課題が見られる。

指導に当たっては、Yes/No 疑問文や疑問詞を用いた疑問文に対する基本的な応答だけでなく、様々な相づちや応答の表現を知識として理解し、1文+αの会話の中で活用していくことが大切である。そのためにも教師と生徒のQ&Aに加え、生徒同士の即興的な会話の活動を帯活動として継続的に行っていくことが必要である。

② 正しい語法・語形を身に付けさせるために

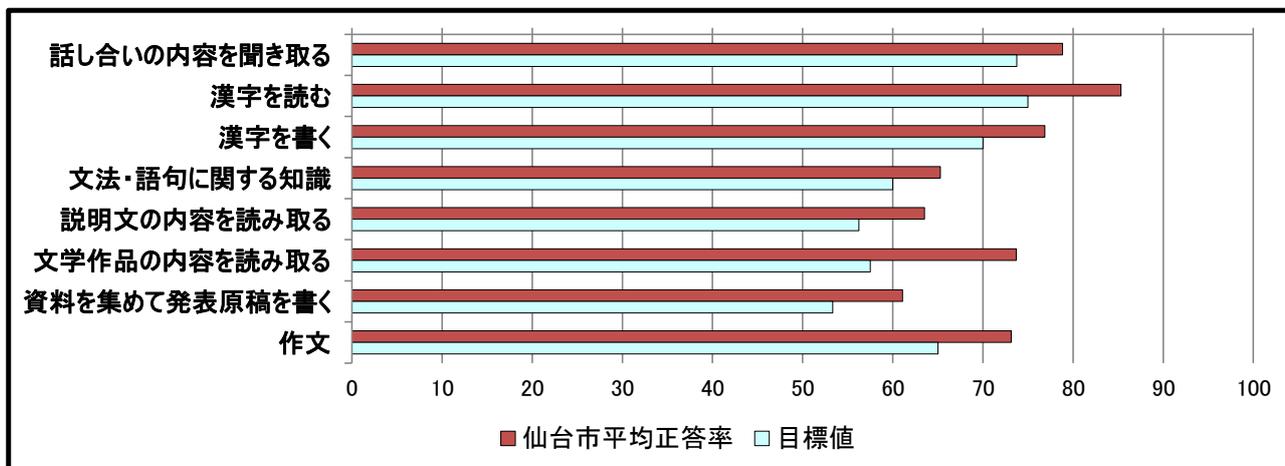
この設問では、2人の対話文において、Bが“I'm sorry.”と言わなくてはならない状況を把握し、適切な語法を選択することが求められている。選択肢があること、命令文という平易な語法であることから正答率は63.0%であった。しかし、否定の命令文はNew Horizon 1のUnit9 part3(通常1年次の12月の学習事項)の語法であると考え、誤答した生徒及び無解答であった生徒が合わせて約4割いるのは、否定の命令文を十分に身に付けていないと考えられる。既習の語法・語形を確実に定着させる工夫が必要である。

指導に当たっては、帯活動などを通して、計画的に既習の語法・語法を繰り返し復習させる場の設定をすることが大切である。

【中学校3年生 国語】

分析結果

目標値 64.2% 市平均正答率 72.6% <2年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値を上回っている。(○：成果 ●：課題)

- ① 「漢字を読む」では、目標値を10.3ポイント上回っている。
- ② 「文学作品の内容を読み取る」では、目標値を16.2ポイント上回っている。
- ③ 「作文」では、目標値を8.1ポイント上回っている。
- ① 「説明文の内容を読み取る」では、目標値を7.2ポイント上回っている。しかし、文章の構成や展開を捉える設問では、目標値を4.7ポイント下回った。見出しやキーワードとなる言葉を基に段落のまとまりを的確に捉える力に課題が見られる。
- ② 「資料を集めて発表原稿を書く」では、社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら、自分の考えをまとめる設問において、目標値を5.6ポイント上回っているものの、無解答率が25.8%と高かった。資料の内容と文章を関連付けて理解した上で、条件に合わせて限られた字数で書くことに課題が見られる。

指導改善の方策

① 見出しやキーワードを基に文章の構成や展開を捉えることができるようにするために

この設問では、与えられた見出しにしたがって、内容を捉えた上で、12段落ある文章を三つのまとまりに分けることが求められている。解答形式は選択であるが、正答した生徒の割合は45.3%にとどまった。他の設問の正答率から文章に即して内容を捉えることは概ねできていると考えられるが、本設問の、段落ごとのまとまりについて適切に分けることができていない。意味段落のまとまりを考える際の手掛かりとして、接続する語(となれば)や指示語(こうした)に着目する生徒が多いと思われるが、それのみで考えると正しく分けることができない。

指導に当たっては、説明的文章において、キーワードや見出し、題名を基に文章の構成や展開について捉えさせる学習活動を適切に設定することが必要である。

② 資料のグラフから読み取ったことを根拠に意見を書くことができるようにするために

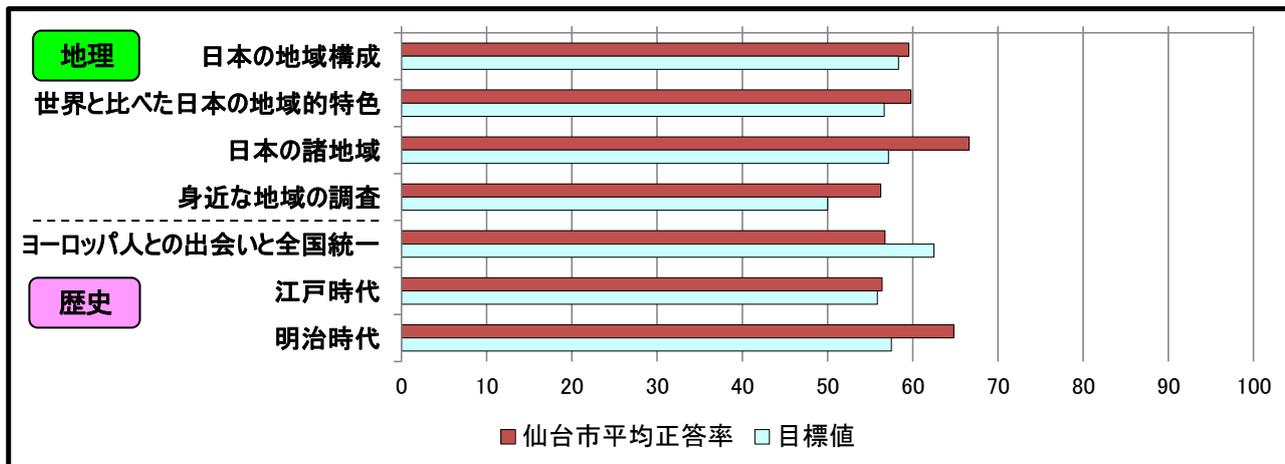
この設問では、人口の推移の表とアンケート調査の結果を見ながら考えた「思考の流れ」に沿って、資料から分かることを空欄部分に当てはまるように書くことが求められている。目標値を上回っているものの、無解答率が25.8%と高かったことから、「思考の流れ」を読み取り、資料の内容と関連付けて理解し、さらに、二つの内容を限られた字数で表現するため、難しいと感じた生徒が多かったと考えられる。

指導に当たっては、資料を丁寧に読み解き、資料と文章を関連付けていく学習が大切である。条件に合わせて、絵や写真や図・表などの資料と文章を関連付けながら読み解いていく学習活動や資料を適切に用いて表現する学習活動を計画的に取り入れていくことが必要である。

【中学校3年生 社会】

分析結果

目標値 57.2% 市平均正答率 60.7% <2年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ①「日本の諸地域」では、目標値を9.5ポイント上回っている。
- ②「身近な地域の調査」では、目標値を6.2ポイント上回っている。
- ③「明治時代」では、目標値を7.3ポイント上回っている。
- ①「日本の諸地域」では、目標値を上回っているものの、複数の資料を関連付けて判断する設問において、解答が4つの選択肢に分散しており、資料を適切に読み取り、判断することに課題が見られる。
- ②「江戸時代」では、目標値と同等であるが、江戸時代の文化の発展に寄与した人物について、当時の政治や社会に関連する複数の資料から探究し、その内容を説明する設問においては、無解答率が33.6%と高く、複数の資料から読み取ったことを基に、説明することに課題が見られる。

指導改善の方策

① 複数の資料を関連付けて読み取り、判断するために

この設問では、関東地方の工業地帯・地域の特徴について、複数の資料を用いて考察する力が求められている。誤答分析から、資料イ(指数のグラフ)についての理解が不十分であり、正しく資料を読み取ることができなかった生徒が多かったと考えられる。

指導に当たっては、地図を活用し、関東地方の工業地帯・工業地域が高速道路網の発達により、内陸へ広がったことについて、複数の資料を基に考察する力を身に付けさせたい。その際に、既習事項である他地域の工業の学習で身に付けた見方や考え方を生かすことにも配慮したい。

② 資料から読み取ったことを基に、自分の言葉で表現するために

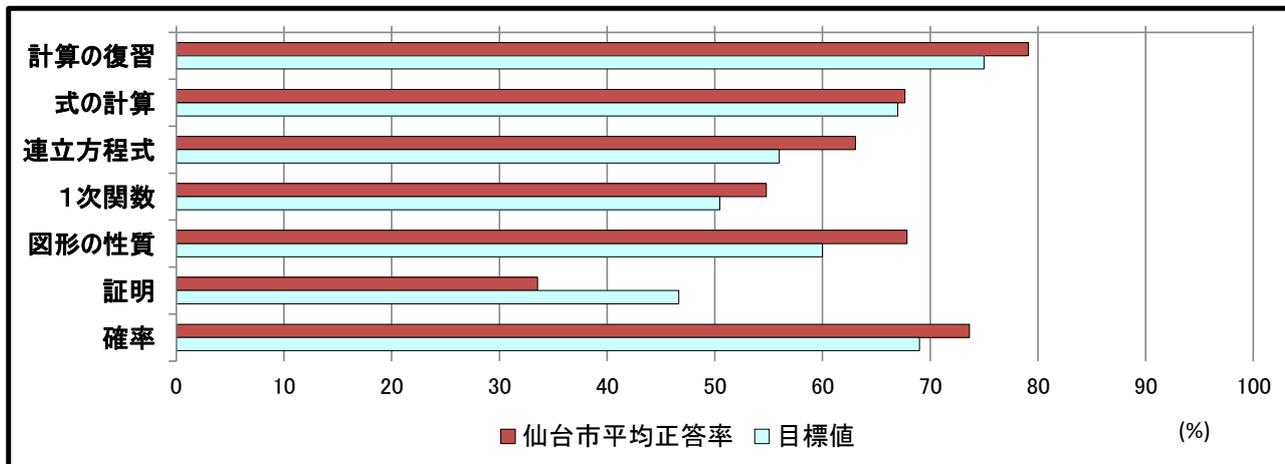
この設問では、年表や文章資料などの複数の資料から読み取って考え、自分の言葉で説明することが求められている。比較的的文章量の多い複数の資料から読み取ったことを総合的に考察したり、判断したことを文章で説明したりすることができなかったことから、資料を適切に活用する力や、資料から読み取ったことを基に考察し、判断する力、自分の考えを表現する力が不十分であると考えられる。

年表や文章資料などの資料から読み取ったことを基に説明するためには、まず、情報を正確に読み取ることが前提となる。個々の資料から、必要な情報を読み取り、その情報から適切に判断して表現できるように段階的に指導することが求められる。

【中学校3年生 数学】

分析結果

目標値 58.4% 市平均正答率 61.4% <2年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ①「連立方程式」では、目標値を7.1ポイント上回っている。
- ②「図形の性質」では、目標値を7.8ポイント上回っている。
- ①「1次関数」では、目標値と同等であるが、延長した直線のグラフから、おじさんが家に着く時刻を読み取る方法を説明する設問で、目標値を20.5ポイント下回り、無解答率も52.2%と高い。問題の解決方法について、根拠を基に数学的な表現を使って説明することに課題が見られる。
- ②「証明」では、目標値を13.1ポイント下回っている。特に、証明されたことから、新たに分かることを選ぶ設問で、目標値を15.8ポイント下回り、誤答率も65.6%と高い。証明を振り返り、それを基に新たな性質を見いだしたり、確かめたりすることに課題が見られる。

指導改善の方策

① 証明された事柄を利用して、新たな性質を見いだすために

この設問では、 $\triangle ABE$ と $\triangle ACD$ が合同であることから、 $\triangle ADE$ が二等辺三角形であることを証明し、更に $\triangle ADE$ が二等辺三角形であることを利用して、新たに分かることが問われている。正答以外の3つの選択肢は、 $\triangle ABE$ と $\triangle ACD$ が合同であることから導くことができる。つまり、消去法で正答を導き出すことが可能である。「 $\triangle ADE$ が二等辺三角形であることを利用して」という問題の意図を理解できていないために正答を導き出せていない。また、3の誤答の割合が高かった理由として、 $\angle AEB$ と $\angle ADC$ はともに $\triangle ADE$ の隣の角であるという理由で選んだ生徒が多かったと思われる。

指導に当たっては、仮定を基に、筋道を立てて結論を考える指導が必要である。証明を振り返り、証明の過程で見いだした事柄や証明された事柄に着目し、新たな性質を見付けるような指導を繰り返し行うことが大切である。

② 具体的な事象とグラフを関連付けて読み取り、問題解決の方法を説明する力を付けるために

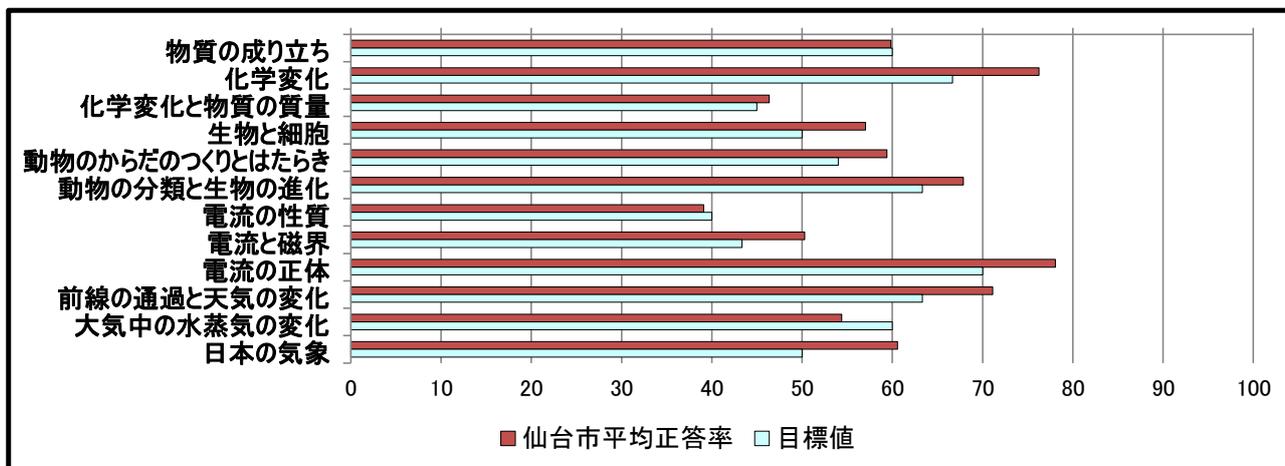
この設問では、主人公とおじさんの電話での会話の内容から、歩き始めてからの時間と残りの道のりの関係を捉え、グラフと関連付けて考えることが求められている。また、一定の速さで歩くという条件に着目し、グラフに表したり、その方法を説明したりすることが求められている。無解答率が52.2%と高くなっている理由として、問題文を丁寧に読み取ることと、問題解決の方法を数学的な表現を使って説明することに課題があるものと考えられる。

指導に当たっては、会話と関連させながらグラフから情報を読み取る活動を取り入れることによって、具体的な事象とグラフを関連付けて読み取れるようにしたい。また、数学的な表現を使ってお互いに説明し合う活動を取り入れることによって、問題解決の方法を説明する力を付けたい。

【中学校3年生 理科】

分析結果

目標値 55.3% 市平均正答率 60.1% <2年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○:成果 ●:課題)

- ① 「化学変化」では、目標値を9.6ポイント上回っている。
- ② 「電流の正体」では、目標値を8.1ポイント上回っている。
- ③ 「日本の気象」では、目標値を10.6ポイント上回っている。
- ① 「電流の性質」では、目標値と同等であるが、条件から電力量や熱量を計算する設問において、目標値を4.2ポイント下回っている。
- ② 「大気中の水蒸気の変化」では、結露の原理と対策について問う設問において、目標値を7.1ポイント下回っている。

指導改善の方策

① 空気中の水蒸気が水滴に変化する実験をから、結露を防ぐ方法を考えさせるために

この設問では、結露が起こる理由と結露の対策を導くことが求められている。結露が始まる温度を「融点」と誤答した生徒は11.0%、結露の対策について正解を導けなかった生徒が41.2%となっている。

結露は日常よく見る現象であるにもかかわらず、空気中に含まれる水蒸気のと気温の2つの要素が関連している現象のため、生徒にとっては、そのしくみを理解することは容易ではない。

指導に当たっては、日常生活で結露が起こりやすい場面を取り上げ、どのような条件下で起こるのか、あるいは起こりやすいのかという問題について、2つの条件に着目した仮説を立て、それらを制御するなどの検証方法を考えさせることが有効であると考え。探究の過程を通して、結露（水の凝結）のしくみを見いだすことができるよう工夫を図りたい。

② 電流のもつエネルギーと、電気器具による水温や室温へのはたらきを関連させて理解させるために

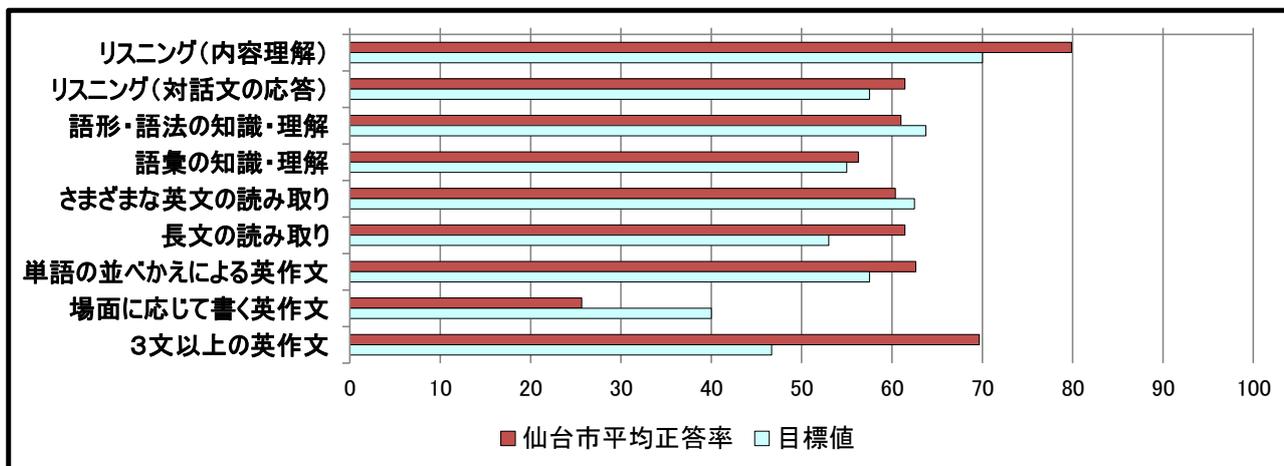
この設問では、空気を1℃上昇させるために必要なエネルギーとエアコンが1秒間に空気に与える熱量を基に、エアコン稼働してから一定の温度に達するまでの時間を算出することが求められている。算出に要する計算は、単純なものであるが、正答率は全体の35.8%と低い。このことから、電力や電力量、熱量に関する概念の形成に根本的な課題があると考え。

第2章の「電流の性質」の指導に当たっては、「電気はエネルギーをもって、明るくする・熱を発生する・動かすなどの様々なはたらき（仕事）をする」という考え方を基にした章構成の工夫を図る。そのためには、3年生で学習する「エネルギーと仕事」とのつながりを意識して指導することが不可欠である。また、授業の展開においては、探究の過程を意識し、生徒が身の回りの事象から課題を見だし、主体的に解決できるよう工夫を図る。電力、電力量等の計算式についても、式の暗記ではなく、電気のはたらき（仕事）やエネルギーと関連付けて考えることができるようにしたい。

【中学校3年生 英語】

分析結果

目標値 58.1% 市平均正答率 62.6% <2年生内容別正答率のグラフ(%)>



※ 目標値-5ポイント ≤ 目標値と同等 < 目標値+5ポイント

市平均正答率は目標値と同等である。(○：成果 ●：課題)

- ①「リスニング(内容理解)」では、目標値を9.9ポイント上回っている。
- ②「3文以上の英作文」では、目標値を23.0ポイント上回っている。
- ①「さまざまな英文の読み取り」では、目標値と同等であるが、説明の内容と資料の情報を対照して判断する設問において、目標値を11.5ポイント下回ることから、説明と資料の情報や条件を基にして英文を正しく理解することに課題がある。
- ②「場面に応じて書く英作文」では、目標値を14.3ポイント下回っている。対話の流れを理解し、適切に質問文を書くことに課題がある。

指導改善の方策

① まとまりのある英文を読んで、要点を理解することができるようにするために

この設問では、登場人物の説明の英文と資料の情報を照らし合わせて判断することが求められている。正答率は、目標値より11.5ポイント下回っている。選択肢4を選択した生徒が33.5%いることから、英文を最後まで正しく読み取ることに課題が見られる。

指導に当たっては、一文一文の意味を確認するのではなく、英文を全体で把握して、話の要点を理解していく活動を継続的に行うことが大切である。

② 場面に応じた英文を書くことができるようにするために

この設問では、JudyとJiroの対話の内容を読み、場面設定を理解し、Taroの応答からJudyの質問を予想し、空欄に入る4語以上の英文を適切に書くことが求められている。正答率が目標値よりも16.2ポイント下回っていることから、やり取りの答えから正しい質問を書くことに課題が見られる。また、無解答率が25.5%であることから、英作文を書く意欲が低いことも考えられる。①正しい語順の知識、②適切な疑問詞を選択する力、③英文を書く前段階として、場面の時制及び応答の内容について正しく読み取り、その応答に合わせて適切に質問を書く力が必要であると考えられる。

指導に当たっては、会話における基本的な質問と応答の一定のパターンを定着させた上で、英語のやり取りに普段から慣れさせることが必要である。また、時制や語順が正しい文を書くことができるようにするためには、教科書本文を基にQ&Aを作るなど、自分の考えた英文を振り返る活動も必要である。定着には継続が必要であるため、単元を通して、または年間での指導の中で、適宜の帯活動として会話、応答の活動を設定できるとよい。